

令和7年度第1回四街道市みんなで地域づくり推進委員会 次第

日時：令和7年8月7日（木）

10時30分～

会場：四街道市役所4階 第2委員会室

1 開 会

2 委員長あいさつ

3 会議の公開・非公開

4 議 題

（1）令和6年度みんなで地域づくり事業提案制度の事業ふりかえりについて

（2）その他

5 閉 会

令和6年度みんなで地域づくり事業提案制度（コラボ四街道）事業一覧

	団体名 (代表者氏名)	事業名	事業概要	新規 継続		事業 部門		申請額 (総事業額)	決算額	担当課
				新	継	地	19			
1	社会福祉法人よつかいど う福祉会 (金室 修平)	よつかいどうユニバ ーサル工業フェスタ	四街道工業団地を地域に開き、魅力あるイベントを実施することにより、地域の農・商・工・福の連携を推進する。また、障害者施設の利用者と地域住民が交流できる機会を創出する。	○		○		500,000 (660,000)	500,000	障害者支援課 産業振興課
2	おむすびっこ (鈴木 未乃里)	子育て家庭応援！ほ っと♡ばんごはん計 画	忙しい子育て家庭の平日夕食を支援し、明日も頑張ろうと思えるようなほっとできる時間、場所を提供する。子どもを中心とした地域交流の場所をつくり、地域を元気にしていく。	○		○		500,000 (624,000)	235,024	社会福祉課 子育て支援課
3	よつかいどう不登校支援 ネット (佐野 彩子)	不登校支援情報の発 信強化プロジェクト	市民を対象に、不登校支援情報の更なる周知、文科省の不登校対策「COCOLO プラン」に基づく情報について理解を促すための講演会・交流会を実施する。	○		○		410,000 (458,940)	281,574	指導課
計								1,410,000 (1,742,940)	1,016,598	

【新規・継続】新…新規事業、継…継続事業（○数字は本制度への申請回数） / 【事業部門】地…地域づくり部門、19…アンダー19部門

コメントシート

委員氏名： _____

	団体名	コメント
1	社会福祉法人よっかいどう福祉会	
2	おむすびっこ	
3	よっかいどう不登校支援ネット	

コラボ四街道まとめ

団体名	社会福祉法人よつかいどう福祉会
事業名	よつかいどうユニバーサル工業フェスタ

事業部門	地域づくり部門
担当課・関係課	障がい者支援課、産業振興課

事業内容	事業の詳細な内容（実施日、参加者数、会場、スケジュール等）や市、関係機関との役割分担や関わり等について記載。資料が多い場合は別途添付。 【開催概要】 イベント名称：「よつかいどうユニバーサル工業フェスタ 2024」 開催日：2024 年 10 月 5 日（土）10 時から 15 時 ※小雨決行 開催場所：四街道工業団地協同組合敷地内 （千葉県四街道市物井 598-22） 共催：よつかいどうユニバーサル工業フェスタ実行委員会／四街道市 開催目的：四街道市内のものづくり産業（工業、商業、農業、福祉など）に関わる事業者、団体、個人と地域住民をつなげること。ものづくりに関わる人々が垣根を越えてつながり、新たなコラボレーションを創り出すこと。 特設 Instagram：kogyofesta 来場者数：2,500 人 ・マルシェ／市内の商店や福祉団体等による製品や飲食等の販売 ➡キッチンカー 13 台、露店 6 軒、マルシェテント 32 軒（フード 12 団体、農産物 2 団体、クラフト系 8 団体、ワークショップ 10 団体）が出店。また、工業団地ブースにて、四街道工業団地協同組合企業各社が、はたらく車の展示・撮影会、自社製品のファミリーセール、自社の技術を活かしたアクティビティ（ポンプを使ったスーパーボール、鉄板を加工したストラックアウトなど）を出店した。 ・ライブ／四街道に縁のあるミュージシャン等による屋外ライブの開催 ➡千代田和太鼓がオープニングを務め、トリは四街道在住の武徹太郎さんがリーダーを務める「馬喰町バンド」が 4 人編成でライブを行った。出演予定だった千代田中学校吹奏楽部さんは雨のため不参加となった。 ・ワークショップ ／工業団地企業廃材等を使った昔遊び、アート作品、楽器づくり、及び新製品の創出等。 ➡実行委員会事務局が工場に伺い、ものづくりの現場を見学した。製品の製造工程で出る端材を、ワークショップをする団体へ提供した。 「蔵の図書館」は、(株) Y T S のプラスチック端材を使い、ハロウィンのステッキづくりを企画。「あそまめ創作教室」は、安孫子建設のカンナ屑を使ってオーナメントづくりを実施した。
------	--

	・デザイン ／チラシ、ポスター、スタンプラリーの用紙などには障がいのある方のアートワークを起用する。 ➡工業製品シルエット×ものづくりというデザインのビジュアルテーマをもとに、今年度はホックボタン-ものづくりとの出会い-とした。 よつかいどう福祉会の2事業所（生活介護はちみつ、四街道市福祉作業所）の利用者による文字、絵を起用。また、ステージの背景となった巨大な凸凹型モニュメントは、生活介護はちみつの利用者が着彩した。			
事業内容変更	軽微なものを除き、当初予定していた事業の内容に変更があった場合は、その内容と理由を記載			
	・スタンプラリー／工業団地企業を巡る「団地丸ごと博物館」の実施。 ➡当初、道路を通行止めにして、団地内の企業を巡るスタンプラリーを企画していたが、警察の許可が下りず、通行止めできなかった。そのため工業団地の駐車場を会場とした。代わりに、会場内を巡ってキーワードを集める「謎解きラリー」を実施。組合企業は全部で何個あるかという問題を出し、「21社」と覚えてもらう内容であった。大人も子どもも楽しめるアクティビティとして好評であった。 ・マッチング ／参加団体への雇用等マッチングブースを設置し、相談会を実施する。 ➡今年度は未実施 ・ワークショップ ／工業団地企業廃材等を使った昔遊び、アート作品、楽器づくり、及び新製品の創出等。 ➡今年度は、準備時間不足により、端材を使ったアート作品、楽器作り、新製品づくりなどには至れなかった。今後は、十分な製作時間を確保した上で、プロのアーティストも巻き込みながら考えていきたい。			
事業費総額	予算	768,000 円	決算	917,148 円
補助金額	予算	500,000 円	決算	500,000 円

事業成果	事業実施した結果、得られた成果や効果を、数字等を交えて記載			
	※来場者アンケートは別紙参照 雨にもかかわらず来場者は2,500名となり、目標であった1,500名を大幅に上回る結果となった。公式 Instagram フォロワーは326名(10/22現在) ① 四街道市内産業の活性化 フェスタ実行委員会は、工業・商業・福祉（農業）分野の従事者によって組織された。こうした産業分野を超えた交流、連携は本事業の成果である。はじめ、様々なアイディアは出るが、なかなか足並みがそろわなかった。企画概要書だけでなく、フェスタの Mission/Vision/Value を整えたことにより、実行委員間の共通理解を図ることができた。 工業団地協同組合の企業は各社の技術を活かしたブースを出し、フェスタの主役として輝いていた。組合企業同士の繋がりがより強くなり、活性化されている。			

	② 四街道工業団地を地域にひらく ・四街道工業団地を、四街道市の「ものづくり」の拠点として位置づけ、本フェスタを「ものづくりの祭典」とした。フェスタでは、工業団地協同組合の企業が各社の技術を使って工夫を凝らしたブースを出店。来場した子供たちを楽しませている。保護者の方からも大変好評であった。 ・組合企業から製造過程で出る端材を市内の団体に提供いただき、それを材料に工作ワークショップをするという新しい取り組みができた。 ・当日のボランティアスタッフとして、地域の自治会や民生委員さん、学生さん等様々な方のご協力をいただき、関わっていただいた。 ③ 障がい福祉の啓発 本フェスタのデザインに、障がいのある方のアートワークを起用した。鮮やかな色彩の絵、ホックボタンの形のシルエットなどを素材に、デザイナーさんの力で洗練されたデザインとなり、地域住民の方の評判も上々であった。「ユニバーサルなフェスタ」を象徴するデザインとなった。 当日は、福祉事業所の製品販売を通して、四街道市近隣地域の事業所を知っていただく機会となった。また、来場する障がいのある仲間たちのために「思いやり駐車場」を用意し、3つの福祉施設の車が利用、利用者と職員合計100名ほどが遊びに来ている。
事業の課題、担当課との関わり等	事業全体を通して、改善点や今後の課題、担当課との関わり等について記載。 [事業の課題] ■実行委員会の組織づくり 今回、初めての取り組みであったため、準備期間は様々なことで手探りの部分が多く、想定以上に時間がかかり、また業務が事務局へ集中してしまった。開催前には分担できたが、次回は早い段階で業務分担していくことが必要である。 ■駐車場 今回、工業団地の駐車場を会場としたことで、会場近くに来場者駐車場がなかった。来場者用駐車場はパワーコメリ様にお借りしたが、徒歩で20分と不便であった。アンケートによれば徒歩・自転車と自家用車の割合は同じくらいであったため、駐車場のニーズは高い。 次回は会場近くに駐車場を用意したい。工業団地内に通る道路を通行止めに出れば、今回会場にした駐車場は利用できるのでは、警察に再度相談し改善を図りたい。 ■運営費 立てていた予算より約17万円程多くかかってしまった。要因は以下 ・会場内にトイレがなかったため、仮設トイレを設置した ・音響で、機材（ドラムセット等）、ポータブル電源等が必要となり追加 節約のため手洗い場を設置しなかったことで、手が洗えなかったという声あり。改善の必要あり。 [担当課との関わり] ■産業振興課さんは、市政だより広報、チラシ配布鑑文、警察署への同行、会場整備用備品調達、ステージ台本、遺失物届出書・・・など細部までサポートしていただきました。

	■障害者支援課さんは、窓口にチラシを置いてくださいました。
--	-------------------------------

今後の事業展開	成果や課題等を踏まえた今後の事業展開について記載
	① 四街道市内産業の活性化 産業を越えて、まずはお互いを「知る・知り合う」ことができた。今後、連携事業などへの発展は大いに期待される場所である。 ② 四街道工業団地を地域にひらく 地域住民の方に、工業団地のことを「知ってもらう」ことが出来た。本フェスタをきっかけに、工業団地と地域住民との交流が生まれ、コミュニティ作りや雇用促進につながることを期待される。 ③ 障がい福祉の啓発 ・フェスタでは、次回以降も障がいのある方のアートワークをメインビジュアルに起用し、彼らの素晴らしい才能を多くの方に知って頂きたい。 ・販売や会場内での交流を通して、障がいのある方の存在が、より身近になり、差別や偏見のない地域社会をつくっていききたい。 ・思いやり駐車場設置や、会場内のバリアフリー整備などを継続的にを行い、誰でも参加できるユニバーサルなフェスタとして、障がいのある仲間たちも気軽に来られるフェスタを続けたい。 引き続き、地域みんなが楽しめる事業として、多様な業種、多様な団体が関わる「ユニバーサル」なフェスタを目指していきたい。

担当課のふりかえり	(産業振興課、障がい者支援課)
	事前の周知について、わかりやすいデザイン性になっており、多くの方に手に取っていただけたと思います。 本事業の最も大きな成果は、市内の事業者や団体、個人、そして地域住民の方々が互いに顔見知りとなり、新たなつながりを形成できた点にあります。実際に、これまで接点の少なかった工業団地内の企業同士が挨拶を交わしており、距離が縮まりつつあることを実感いたしました。 今後は、本イベントが一過性の催しにとどまることなく、継続的かつ包摂的なプラットフォームとして定着し、さらには他地域への横展開や新たなコラボレーション創出につながることを期待しております。

みんなで地域づくり推進委員会のコメント	
---------------------	--

※その他アンケート等がある場合は別途添付してください

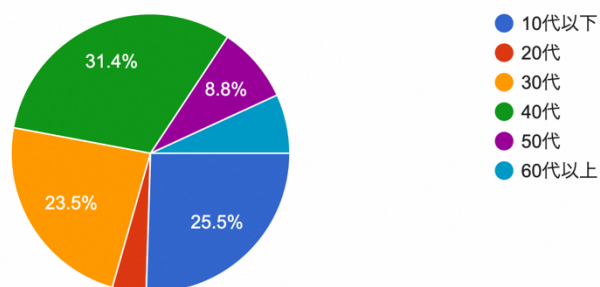
[写真添付]

よっかいどうユニバーサル工業フェスタ 2024 来場者アンケート

回答数 102 名

年齢を教えてください

〔必須〕 年齢を教えてください
102 件の回答



10 代以下：26

20 代：4

30 代：24

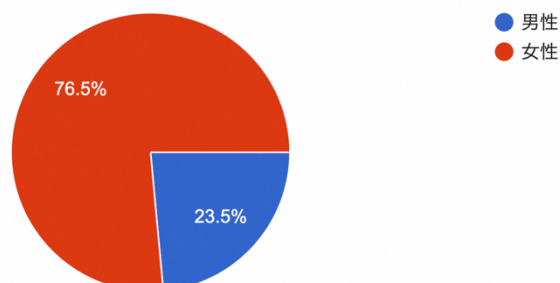
40 代：32

50 代：9

60 代以上：7

性別を教えてください

性別を教えてください
102 件の回答

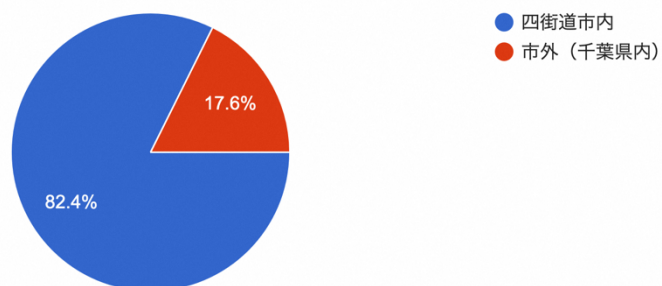


男性：24

女性：78

お住まいの地域を教えてください

〔必須〕 お住まいの地域を教えてください
102 件の回答

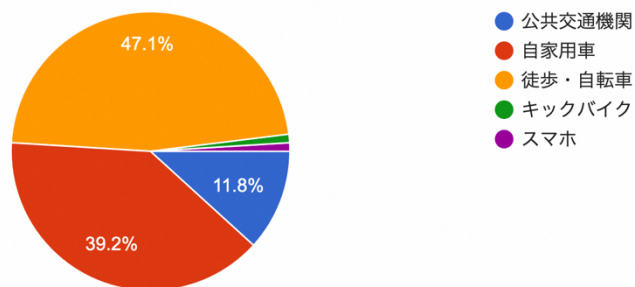


四街道市内：84

市外（千葉県内）：18

フェスタはどのようにしてご来場されましたか？

〔必須〕 フェスタにはどのようにしてご来場されましたか？
102 件の回答



公共交通機関：12

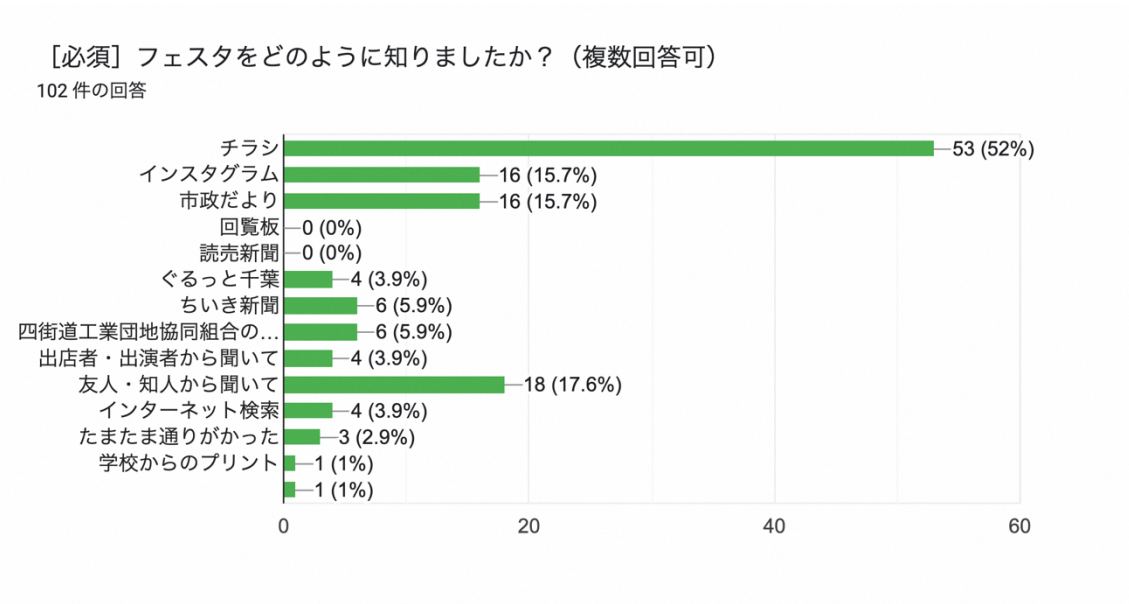
自家用車：40

徒歩・自転車：48

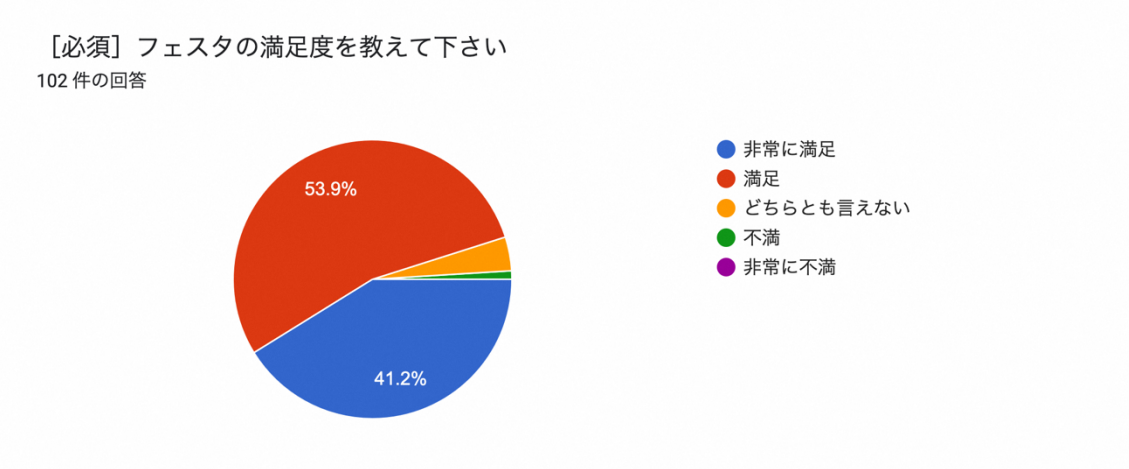
キックバイク：1

スマホ：1

フェスタをどのように知りましたか？



フェスタの満足度を教えてください



非常に満足：42

満足：55

どちらとも言えない：4

不満：1

最も印象に残ったブースやプログラムとその理由を教えてください

- 射的
- 餃子
- スーパーボールすくい
- キッチンカー
- スタンプラリー
- パネル展
- 鏡メガキ
- でんぐりおもちゃ
- ボタン
- 団子屋
- スーパーボウルすくい
- 久永 関係者が勤務中
- 射的 とても面白かった
- 反射材の会社 リフレクターが、好きだから
- 激しいスーパーボールすくい
- POLA エステの人が優しかった
- ただで出来る射的とか遊びが楽しかった
- 団子の焼印
- YTS
- ファミリーフーズ
- バインミー
- フォークリフト
- ポーラ
- 古着リメイクのワークショップ
- 特になし
- 古着リメイクワークショップ
- スーパーボールのところ。ポンプがすごかった！
- 団子焼印体験
- ハロウィンのワークショップ
- フォーマル販売
- パネル展は知らなかった地元の会社が知れて良かったです
- 四街道団子
- キッチンカーが良かった
- 射的 楽しかった。
- 車にのれたり、射的など

- スーパーボールすくいの会社
- とくになし
- 久永製作所、リフト
- 久永製作所
- 的入れ
- なみ家
- 職探しに来ました
- 工業団地ブース、子供向けのお店が多くて子供と一緒に楽しめました。
- ポンプの見本とボール救いが面白かった。子供が喜びました
- ワイティエスのスーパーボール
- スーパーボール
- 久永製作所 舞台挨拶
- キャット
- リフトの体験は子供にも良い体験だと思いました。マルシェも中々ない出会いで新鮮でした
- ナルビー
- 車の展示や試乗
- 工業団地ブース
- 射的。子供が楽しんでいた。
- 本宮自動車
- スーパーボール
- ポンプの使い方が面白かった。

当日のイベントについて改善点があれば教えて下さい

- なし
- 特になし
- 雨天時大変そうだなと思いました
- とくになし
- 特になし、
- 当日雨が微妙に降っていたので、HP かインスタ等で今日やるかやらないかのお知らせがあると嬉しい
- 飲食スペースがあるとよかった
- 飲食出店が多いので、テーブルやベンチ席があったらよかったなと思いました。
- 企業の仕事内容を詳しく知りたい
- 飲食スペースが欲しい

- アンケートは答えられない人が多いのでやめたほうが良い
- 企業ブースの看板をもっと派手にしたほうが来場者に知ってもらえると思いました
- なし。来年もやってください
- 駐車場が欲しい
- 駐車場があるといいです
- なし
- 食べるブースがない。
- 射的
- 食べるスペース
- 良かった
- 雨が思いのほか強かったので雨を避けられる休憩所がもう少し多いと良かった
- どこに並んだらいいのかわからないところがいっぱいあった
- 雨の時は屋根が欲しい
- イートスペース、駐車場
- 駐車場が遠い
- 工業と言うから工業団地内の物が沢山あった方が良い。期待外れでっかり😓
- 完璧🔴
- 雨の時の食べるスペースがあるといいな
- 企業ブースがもう少し各企業の紹介パネルや展示があると良かった。どんなことをやる、作ってる会社なのか、会社にとって不要な部品、端材等でも展示やご自由に持ってっていいですよとかあると、子供は興味深く見ると思います。それを踏まえての体験コーナーがあるとなお良かったです。
- 食べ物のお店が多いのに、ゴミ箱が少なくて困った
- 雨天時の飲食など、もう少し屋根のある場所が欲しかった。
- 雨だったので、屋根がもっとあればありがたかったです。
- 会場内の地図があると良かった
- 天候の読み
- 雨天順延にしてほしかった。小雨でも濡れてしまった。
- 雨なのが残念でしたが楽しかったです！飲食スペースがもう少しあると良かったです。

事前の案内や情報提供の仕方について改善点があれば教えてください

- なし
- チラシも SNS も市政よりも満遍なく目撃したので、いいとおもいます。
- スーパーとかに貼紙
- とくになし

- 問題ない
- 前日に雨予報だったので、当日朝にも開催のお知らせをインスタに上げてほしかったです。
- 中止かどうかの判断
- 物井駅の改札に短期でも告知できれば良いと思います
- ヨークマートやイトーヨーカドーにお知らせがあればいいかも
- チラシのみで充分
- 特になし
- 情報発信をもっと多めであるといいです
- ゴミ箱がわかりにくかった
- ない
- Xでも告知したほうがいい
- 今まで通りで良いと思う工業団地内の
- 完璧🔴
- 駐車場もあったらなあ
- 中止、開催のお知らせがもっと色々な媒体で分かるとありがたいです。
- 店のひとつひとつの場所が分かりにくいので事前に広告に乗せられるとありがたい
- Xとかで宣伝

次回のフェスタに期待するテーマやプログラムがあれば教えてください

- なし
- SDGs
- 特になし
- 子ども参加型のワークショップ
- とくになし
- もっとくわしい工場の会社のこと
- 今回同様
- おなし
- 体験型
- 子どもが楽しめるコーナーがたくさんほしい！
- 工業団地内の製品をもっと PR
- 子供も参加しやすく工業がわかるプログラム
- もっと大人の洋服など置いて欲しい

あなたが四街道市にあったらいいと思うお店や企業を教えてください

- イオン
- イオン コストコ
- とくになし
- 本
- 飲食店
- 女性が多く働ける企業、短時間でも
- ケーキ屋 子供服
- 鮮魚店
- アマゾン
- わからない
- サステナブルなお店
- サステイナブルなお店
- なし
- 本屋
- 子供向けのご飯屋さん
- ファストファッション意外のおしゃれな服屋
- 眼科
- 工作機械等の使えるワークショップ
- 特になし
- 子供のおもちゃの展示や販売、ものづくりの工場見学など、子供の知的好奇心を刺激する場所
- 無印良品

その他にフェスタに関するご意見やご感想があれば教えてください

- 楽しかったです！
- 地元でイベントがあるのがとても嬉しいです！
- とくになし
- とても楽しかったです！また開催を願ってます
- 近くに住んでいましたが、どのような会社があるか知らなかったなので、しれて良かったです。
- 地域の人に仕事が見えて良い
- 賑やかなで楽しかった
- とても楽しかったです

- とても楽しかったです！また来たいです。
- グリーンスローモビリティを物井駅との間でシャトル運行してみてはどうでしょうか
- 子供から大人まで楽しむことができました。
- なし
- 興味深かった
- こんなに会社があるなんて知りませんでした。
- 雨で残念ですが楽しかったです
- 来年も楽しみにしてます
- あるくところにもっとスタッフを
- 特になし
- すごく楽しかったので来年もやってほしい
- 楽しかった！
- 飲食スペースがもっとあるとよかったです。買ったものを食べる場所がなく、ベンチだけでもあれば違ったかなと思います(天候で難しいかもしれませんが)
- たのしめました！

コラボ四街道まとめ

団体名	おむすびっこ
事業名	子育て家庭応援！ほっと♡ばんごはん計画

事業部門	地域づくり部門
担当課・関係課	[担当課]子育て支援課、社会福祉課

事業内容	事業の詳細な内容（実施日、参加者数、会場、スケジュール等）や市、関係機関との役割分担や関わり等について記載。資料が多い場合は別途添付。			
	[内容] 子ども食堂の開催と居場所づくりを実施した。 開催日：毎月最終木曜日 14:00～20:00 場所：大日桜ヶ丘自治会館の和室とホール 対象：子育て家庭 参加者数：4月…60人、5月…85人、6月…135人、7月…79人、8月…49人、9月…74人、10月…87人、11月…66人、12月…58人、1月…94人、2月…86人、3月…86人 [関係機関との役割分担] 桜ヶ丘自治会 開催場所の貸し出し 備品の一部保管 ※参加者アンケートについては、別途添付			
事業内容変更	軽微なものを除き、当初予定していた事業の内容に変更があった場合は、その内容と理由を記載			
	自治会館を利用する他団体との兼ね合いで、水曜日を木曜日に変更。 人員の都合で、長期休み期間の月2回開催を月1回に変更。 参加者が多いため、自治会館の和室だけでなくホールも借りて実施。			
事業費総額	予算	774,000 円	決算	478,095 円
補助金額	予算	500,000 円	決算	235,024 円

事業成果	事業実施した結果、得られた成果や効果を、数字等を交えて記載			
	今年度、西中B地区として初めてのこども食堂としてスタートした。予想（45名/回）をはるかに上回る参加者数で、当初予定していたスペースでは収まりきらず、自治会館の別の部屋（ホール）も利用させてもらうこととなった。（年間総参加者数959人、約80人/回、ボランティア約13人/回） 参加者からの話の中で、家ではあまりご飯を食べないけれども、食堂に来るとよく食べるという声をよく聞く。周りの子ども達の食べている様子を見ながら、自然に食べることの楽しさを感じているのだと思われる。 保護者の方々が輪になっておしゃべりしている姿もよく見かける。食べ			

	終わった後もすぐには帰らず、遊んで帰る子どももいる。食事を待ちながら、子どもを遊ばせている間に、自然に会話が生まれ交流が深まっているよう。安価で夕食を食べられるというだけでなく、交流の場所という意味でも地域のニーズがあるのだと強く感じた。また早い時間には、子ども達だけの参加もある。 食材については、（全てではないが）地域で家庭菜園をされている方が季節の野菜を寄付してくれている。米についても四街道市内の農家から割安で購入している。その他企業や個人の方から、無農薬玄米、味噌、海苔、お菓子、飲み物、本、おもちゃなどの寄付もいただいている。 料理上手なお母さん・おばあちゃん世代のボランティアが食材を調理し、受付は中学生ボランティア、配膳や居場所（遊び場）は高校生・大学生ボランティアが参加と、様々な世代のボランティアが参加している。四街道西中学校の先生や養護教諭の先生も活動の様子を見に来てくださっている。 食物を通して地域のつながりを感じることができ、そしていくつもの大人たちの目で地域の子どもたちを長く見守っていける基盤を作っていけるのではないかと感じている。
事業の課題、担当課との関わり等	事業全体を通して、改善点や今後の課題、担当課との関わり等について記載。
	[事業の課題] 貧困や閉鎖的な家庭へのアプローチの方法を検討する。孤立化を防ぎ、必要な支援に繋がったり、関係機関と連携することによって見守りを継続できるようにする。 [担当課との関わり] ・子育て支援課…市ホームページに掲載し、周知にご協力いただきました。 ・みんなで課…市政だよりに掲載し、周知にご協力いただきました。
今後の事業展開	成果や課題等を踏まえた今後の事業展開について記載
	今後も多くの方に助けていただきながら食堂を長く継続していく。おむすびっこ食堂を利用した子ども達が、思春期・青年期になり、迷ったり、悩んだりした時、SOSを出せるような関係になれるよう地域に根付いた食堂にしていく。また、年齢を問わず地域の皆さまの心身の健康不安に寄り添えるような活動もしていきたい。 「四街道子ども食堂ネットワーク」とも連携して活動を周知していくとともに、人的・物質的・資金的な援助がスムーズに受けられるような体制を構築していく。
担当課のふりか	（子育て支援課）

えり	昨年8月におむすびっ子食堂に伺った際、ご飯が出来るまでの間、自治会館のホールで楽しそうに遊ぶ子どもの姿や、お母さん同士が子育てなどについて情報交換を行う姿が見られた。また、おばあちゃんが生き生きとご飯を用意する姿も見られ、民生委員をはじめとする地元のボラティアの方々が手伝いに来てくれているという話を聞いて、立ち上がって間もない食堂であるにも関わらず、地元にとっても愛され支えられている食堂なのだと感じた。 こども食堂は親子にとっての大切な息抜きの場、多世代が交流できる場としての機能を果たすだけでなく、欠食対策や支援が必要な子どもや保護者を早期に発見し、必要な支援に繋げることができる側面も有していると考えることから、今後もこども食堂と連携を図りながらこどもの居場所づくりを推進していきたい。
----	---

みんなで地域づくり推進委員会のコメント	
----------------------------	--

※その他アンケート等がある場合は別途添付してください

[写真添付]

アンケート結果

2024. 10 月

① おむすびっこ食堂を知ったきっかけ

地区の掲示板 17 名
知人の紹介 11 名
SNS 2 名
市政だより 1 名
その他 1 名 (こども会 1 名)

② 何回利用したか

1 回 8 名
2 回 6 名
3 回以上 18 名

③ おいしかったメニュー (何個でも)

豚汁 29 名 「いつもおいしいです!」「おいしかったです」
おにぎり 9 名
ポテトサラダ 7 名
玄米 5 名
スイカ 4 名 「フルーツがあると大喜びです!」
さつまいも 3 名
とうもろこし 3 名
ゴーヤメニュー 2 名
オクラの肉巻き 2 名
さつまいもチップス 2 名
だだちゃ豆 2 名 「子どもが喜んでました」
にんじん 2 名
スープカレー 2 名
その他 (かぼちゃマスタード お好み焼き じゃがいも のり 漬け物等)

「全て♡」

「みんなおいしかったです」

④ 要望・感想など

・毎月楽しみに伺っています。家では食が進まない娘がおにぎりを喜んで食べるので親としてとても嬉しいです。これからもたくさん利用させていただきます。

・毎月、習い事の後にそのままお友達と利用しています。自分自身も仕事でへとへとの中、このような場を提供して頂き、子共達も月に一度のこの日をいつも楽しみにしておりとても助かっています。子供が大きくなったらお手伝いにも参加出来たらなと思ってます。あたたかい場をつくって下さりありがとうございます。

・子供が毎月おむすびっこを楽しみにしていて当日はお友達も一緒なので子供も親も楽しく食事させてもらっています。

・おいしかった いろいろなゲームがあって楽しかった。

・あやとり トランプ いつもおいしいです。

・すきに遊べる。友だちと会える。自由♡

・塩むすびにのりを巻いて食べるのが気に入っているようで、毎回楽しみにしております。お値段もとても安くありがたいです。いつもありがとうございます。おいしくて家よりたくさん量を食べてくれます。

・おんなじ人が占領しているイメージがある。お菓子やジュースを帰りにもらえて喜んでいきます。豚汁やおにぎりは格別においしい。色々な野菜の料理を食べられて良いと思う。

・からあげ

・いろんなあそびや、ゲームなど、いっぱいあったのしかった。ごはんは季節の食材などをとりいれたおかずなのがいっぱいあってすごかったし、おいしかった。わたしが一番好きなごはんは、スープカレーです。すこしスパイシーだけれど、小さい子でもたべられるくらいのスパイスでおいしかったです。

・いつもおいしい食事をありがとうございます。

・いつもおいしい食事をありがとうございます。子共たちもいつも楽しく来てます。

・いつもおいしい食事をありがとうございます。これからも応援しています。感謝

・なかなか自分でおむすびをつくことがないので人の手でにぎったつくりたてのおにぎりがたべれることに感謝しています。

・子どもがおちつきなかったのもやさしく見守ってくださり幸せな瞬間でした!!

・おりがみができて子供がよろこんでいました。

・席が空くのを待つ間、遊んですごせる所があるのはとてもありがたかったです。また、初めましてでも小さい子を気にかけてくださる方がいて居心地よかったです。

・美味しかった。明るくて温かくていい雰囲気でした。

・おかずまで提供して下さって豚汁も具たくさんでおいしかったです。ありがとうございました。頑張ってください。

・とても良かったです!!また来ます。

・小学生組が結構元気に走り回っていて、小さい子も多いためヒヤヒヤする場面も何度か見かけました。(親同士が話していたりで子供をみていない感じがかった) 雰囲気が良くてとても良い場所になってると思う。

コラボ四街道まとめ

団体名	よつかいどう不登校支援ネット
事業名	不登校の情報発信強化プロジェクト

事業部門	地域づくり部門
担当課・関係課	青少年育成センター

事業内容	事業の詳細な内容（実施日、参加者数、会場、スケジュール等）や市、関係機関との役割分担や関わり等について記載。資料が多い場合は別途添付。
	[内容] ① 既存の「不登校相談窓口ガイド」のリニューアル版として、市内の不登校支援体制および詳細を一冊にまとめた「学校に行きたくな〜い！に向き合うハンドブック」を作成し、9月から配布を開始した。 <発行部数>12,100 部 <配布場所> 市内全小中学校（教職員用）、市内小中学校に通う全家庭、来年度小学校入学の児童がいる家庭（学校説明会で配布）、青少年育成センター、市内校長会、みんなで地域づくりセンター、市立図書館、市内各小児科および下志津病院地域連携室、市議会議員、保健センター、民生委員、保健推進委員、子ども・子育て会議委員および事務局、子育て支援課、わろうべの里、社協、千代田地区社協、ドットライフ四街道（発達支援）、桑田住宅（不動産会社）、鷹の台自治会、県子どもと親のサポートセンター、県不登校訪問相談教員、千代田公民館、イベント「不登校の心配のある児童生徒の保護者交流会」（令和7年1月16日青少年育成センター主催）、「千葉県の不登校を考える」（令和7年1月25日美浜文化ホールにて、千葉県の不登校を考える会主催） <配布対象> 当事者、当事者の保護者、不登校に関わり、関心のあるすべての方 <担当課とのかかわり> 掲載情報の提供、原稿の確認、学校および学校を通しての家庭配布 ② 不登校からの進学トークセッション「不登校だったぼくが動き出したきっかけ」を主催した。

	＜開催日時・場所＞ 1月18日（土）14:00～15:30 ＜会場＞ 四街道市文化センター203号室 ＜対象＞ 不登校に関心のあるすべての方 ＜参加人数＞参加者46名 ＜募集方法＞チラシ配架およびSNS、マチコミ配信 ＜担当課とのかかわり＞ 市青少年育成センターから学校へのチラシのマチコミ配信依頼 ＜チラシ＞ 発行部数：500枚 配布先：不登校親の会（四街道市、佐倉市、千葉市）、みんなで地域づくりセンター、市立図書館、市内公民館、親の会への参加者および知人友人を通しての直接配布 ③ その他不登校情報提供を補完する手段として、ウェブサイトの開設、不登校に関する図書の閲覧・貸し出しを行った。 ＜ウェブサイト＞ Google siteの無料版にて作成した。 ＜図書の閲覧・貸し出し＞ 16冊の図書を購入。市内4か所の親の会および居場所で活用した。			
事業内容変更	軽微なものを除き、当初予定していた事業の内容に変更があった場合は、その内容と理由を記載			
	なし			
事業費総額	予算	458,940円	決算	312,860円
補助金額	予算	410,000円	決算	281,574円
事業成果	事業実施した結果、得られた成果や効果を、数字等を交えて記載			
	① ハンドブックについて 不登校とはかかわりのない家庭や市民にも行きわたるよう広く配布することは他自治体でもほぼ事例がないため、意図が伝わらず否定的な意見が寄せられることも想定していたが、当事者だけでなく、不登校とは関係のない保護者からも好意的な声が寄せられた。 学校配布以外では、市政だよりをみてわざわざ取りに来られる方、不登校の孫のため知識を得たいと手に取る方もいた。特に市立図書館の正面玄関への配架分は、1か月間で50冊以上が手に取られるなど、不			

登校との関わりの有無にかかわらず、広い世代への周知には一定の成果があったと考えられる。

市内親の会や居場所への参加者も増加し、特にたき火の会への参加者は平均 10 名未満であったが、ハンドブックの配布以降 11 月 24 名、12 月 22 名、1 月 29 名と、子どもの参加が顕著に増えた。

※ハンドブックに寄せられた感想は別途添付（添付 A）

② 不登校からの進学トークセッションについて

定員 30 名のところ申し込み多数のため増枠、46 名の参加があった。ほぼ半数以上が市内外在住の保護者。その他千葉市教育センター、中山学園高等学校、茨城県石岡市国府中学校、市内外学習教室主宰者などの市内外の教育関係者。四街道市社協、主任児童委員、市議会議員、当事者の小中学生の参加もあった。

終了後もオンライン・アーカイブ配信の問い合わせがあり、メディア取材など、一団体としての活動の枠を超え「四街道の不登校への取り組み」として注目を集めることとなったと思う。

※トークセッションの写真および感想は別途添付（添付 B）

③ ウェブサイトと閲覧・貸し出し用図書

ウェブサイトは完成時期が遅れたため、サイトの存在を広く周知するに至らなかったことが反省点だが、次年度以降サイトの活用に取り組みたい。

※完成したサイト画像は別途添付（添付 C）

書籍は、16 冊を 4 か所（親の会おひさまクラブ、ゆらぎ、おしゃべり会、たき火の会）にて活用した。支援者からは「資料が手元にあることで、保護者に対し、根拠のある適切なアドバイスに役立つ場面があった」「参加者との話題の糸口になった」と声が寄せられた。保護者への貸し出し件数は 7 件。

※活用の様子は別途添付（添付 D）

事業の課題、担当課との関わり等	事業全体を通して、改善点や今後の課題、担当課との関わり等について記載。
	・事業の課題 特にありません。 ・担当課との関わり ハンドブック作成に際し、学校側の立場からの細やかなアドバイスをいただいたことで、一面的な情報ではない、誰が読んでも納得していただけるものになった。市内小中学校の全家庭、小学校入学予定者への配布という前例のない取り組みにも、各学校との連携や配送の協力まで担っていただけたことは非常に心強く、心から感謝申し上げたい。

今後の事業展開	成果や課題等を踏まえた今後の事業展開について記載
	保護者への情報提供は、本事業で作成したウェブサイトなどのデジタルツールを活用し引き続き取り組んでいく。また、トークセッションが好評だったことから、今後も講演会の継続的な主催を検討する。近隣市の団体から、ハンドブック作成・配布やイベント主催のノウハウについて問い合わせもあり、本事業を経て得た経験や知識を四街道市の取り組み例として紹介し、支援者同士の横のつながりに生かしたい。

担当課のふりかえり	(青少年育成センター)
	本ハンドブックを作成していただいたことにより、市内の支援体制や相談窓口についての情報を整理、明文化し、「どこに相談したらよいのか分からない」という保護者の声に応える形となった。教育委員会としても、本冊子の活用を契機として、引き続き、関係機関との連携を強化しながら、誰一人取り残さない支援体制の構築に努めていきたい。

みんなで地域づくり推進委員会のコメント	
---------------------	--

※その他アンケート等がある場合は別途添付してください

【添付資料 A】

ハンドブックに寄せられた意見

- ・うちは学校で配られて持って帰ってきた。手に取ることができてありがたいなと思ってます。
今、まさに学校に行けていない子やその保護者が、フラットな気持ちでこの冊子に出会えたらいいなと思います。すごく、難しいのかもしれないけど。
- ・幼稚園を卒業するとき、不登校になるなんて思っても見ない頃から、この冊子の存在とか中身を知ってたらいいなと思いました。誰にでも、起こり得ることなんだから。っていうのを、市民みんなが知って理解して欲しいよね、とこの冊子みて、あらためて感じました。そう感じさせてくれる、ほんとに素敵な冊子だと思います。
- ・ハンドブックの「知ってる？子どもの本音」のページを見て、自分はこの子の気持ちと似てるんだ
よって不登校の子どもが話してくれて、親子の会話のきっかけになりました。
- ・うちの子は不登校じゃないけど、わかりやすい。
- ・我が家の子どもは学校に通っていますが、「いいこと書いてあるなあと思った」という感想が子どもからありました。

【添付資料B】

トークセッション「不登校だった私が動き出したきっかけ」の様子および感想



<アンケート結果>

■参加しようと思った理由

- ・中2 息子が不登校だから
- ・不登校の娘がいるから
- ・不登校を脱出した当事者の方のお話を聞ける貴重な機会だから
- ・掃部さんのお母さん発の Facebook でお知らせいただいて、行ってみようと思いました。
- ・息子が不登校だったので、Facebook を見つけました。不登校からの進学をどのようにしたのか知りたくて
- ・民生委員として相談などがあった時に適切な寄り添いができるようにリアルなお話を聞きたかった。
- ・経験者の名前の声がきいてみたかった
- ・娘の不登校に悩んでいたため
- ・マチコミ（学校メール）で知って、ぜひ今まさに悩んでいた事だったので、行きたい！と思いました。
- ・娘が不登校で、体験されたお話をきいてみたかったからです。
- ・誘われたから
- ・自分の子だけではない、他の方の話を聞いてみたかった
- ・まゆさん（お母様）からのお知らせ。当時SNSで彼女が迷い、調べていたこととリンクしました。
- ・親に誘われたから
- ・勉強したかったから。
- ・親の会おひさまクラブのママさんに教えてもらいました。

■感想や掃部さんへの一言など

・友達がいって、部活もやっていて、リーダー的な存在の中でいきなり学校へ行けなくなったことで、ご本人も親も葛藤がたくさんあっただろうと思います。親の重圧と自分の重圧があると、お話いただき、息子も頑張ってるんだなと感じました。道を外れたわけじゃないこと、選択肢がいくつもある、四街道にも支援してくれる場所があるということに安心が持てました。

・当時の気持ちや親へのメッセージなど生の声、正直な気持ちを直接聞くことができ、今後の親の対応や声かけの仕方など参考になり参加してよかったです。また希望が待て、励みになりました。娘が自分らしく笑顔で過ごせるよう、これからは「大丈夫だよ」を合言葉に信じて待つことが大事だなと思える事ができました。自分のことを話すのはとても勇気のいる事だと思いますが、素晴らしいですね。応援しています。

・中3 不登校女子の母です。娘と2人で参加させていただきました。

不登校を持つ親の集まり等には参加しておりましたが、実際に当事者の方からお話を聞く機会は初めてだったのでとても貴重な時間でした。掃部さんがご自身の体験を明るく話す姿に、娘のこの先の未来にもたくさんの希望があると安堵しました。娘も（発言した子です）高校進学を控えて不安もある中、不登校を脱出した先輩の姿に勇気をもらったようです。

掃部さんが北海道に行った事をきっかけにして動き出したように、娘もフィリピンに行った事をきっかけに動き出しています。やはり環境を変えると言うか、自分の常識外の体験をすると言うのは大事なんだと実感しました。今自分のいる世界が全てではない事を知る事は、不登校の子供達にとってキーポイントになるのではないかと思います。

これからも『行く先の見えない大冒険』真っ只中の娘を、見守るというサポートで支えたいと思います。ありがとうございました。最後になりましたが、このトークセッションを企画運営していただいたスタッフの皆さんご尽力いただきありがとうございました。

・本当にありがとうございました。支援者として大変参考になりました。

・掃部さんの経験とても参考になりました。不登校の親の話は聞けても、当事者の話はなかなか聞けないものです。親にどうしてほしかったのか、気持ちが聞けてよかったです。また、発言してくれたお二人の言葉、とても胸にささりました。「大丈夫」と言って下さい。私は言ってきたつもりですが、最近忘れていたので、改めてその言葉を伝えてあげたいと思いました。参加できて嬉しかったです。

・素敵なお話をありがとうございました。とてもわかりやすく、又、あっという間でした。今後のご活躍を楽しみにしています。スタッフの方々、ありがとうございました。

・言葉に実感がこもっており、大変参考になりました。

・今まで自分のやり方は娘を追い込んでいた事に気づけました。道はあるし作れるとお話を聞いて、勇気づけられました。

・とても良かったです。やはり、子どもの気持ちがわからず、どうにか学校に行かせる事を1番に考えていました。ありがとうございます。また何か機会がありましたら、ぜひ聞かせていただきたいです。

・不登校でも（中学校に1日も行けなくても）行ける高校はある。道はある。作れる。といったお話に安心と勇気をもらいました。

・掃部さんのお話を聞いて、すごく共感したし、友だちと自分の思っていることをハッキリ言えてマジで良かったです。

・とても心に響く言葉がたくさんありました。まだ先が見えない中にいますが、少し気持ちが楽になりました。進行の方のフォローも的確でわかりやすく、とても濃い時間が過ごせました。不登校の会に参加させていただきたいと思います。

・今英語教室で生徒さんと関わり、何ができるか、しない方がいいかヒントをもらいました。当時お母さんがSNSで集っていた情報、学校、思い、こんな風に笑顔を作る1つ1つになったんだ！とおばちゃんのようにうれしい、悲しいとかいろんな気持ちになりました。親が中心にいろいろしない、親がキーキーするそのことが問題だ。私は地域？が嫌だった、でも学校に行かないと決断できたことはすごいと思う。外に出るってスッキリするよね！2人の女の子ありがとう。

・昨日はありがとうございました。不登校だった方の話、現役不登校の子供達のリアルな気持ち。を聞くことができて、親として我が子にしてあげられることとは？を考える日になりました。

・学校に行けなくなった時の気持ちや家族との関わり、心の変化、母の良かれと思っていった言葉良かれと思ってやってくれてたであろう行動で嫌だったこと、辛かったこと当事者のそのままの気持ちを振り返りながら話してくれました。

あさとさんの言葉で、蝶のサナギもかわいいからって触りすぎるとちゃんとした蝶にならなかったりするのと同じで、そっと見守ってるだけの方が成長できたりするみたいな話がありました。本当にそうだなって思いました。親は子どもに何か起こるといろんな事をしたくなる。何か起こらなくても手を掛けすぎたりね。話を聞いててやっぱり正解なんてない。子ども達の気持ちにマニュアルなんてない。一人一人みんな違う葛藤があって学びがあって変化があって自分自身と親との向き合いがある。

最後に不登校の子を持つお母さん方の話があったり、少し前まで不登校で私の場合こんな感じだったってシェアしてくれる子達がいまいました。その中で響いたのは、私も知っている6年生の女の子の言葉で親たちに言いたいのは大丈夫じゃなくても大丈夫って言って下さい！って言葉子どもはやっぱり親をみてる。大丈夫じゃないのは本人も分かっているそれでも親には大丈夫って言って欲しい。親も辛いけど子どもはもっとどうしたら良いのかわからないんだなって改めて感じました。それから変えられるチャンスがあるなら環境を変えることも大切なんだなぁと教えてくれました。あさとさんも話してくれた女の子も環境を変えたことで視野が広がった話をしてくれました。これは本人がそうしたい！って思えたことで変えられたことだけど、親はいつでも伝えられるようにいろんな情報を知っておくことも大切だなと思いました。そしてここで聞いた話しは不登校の子を持つ親じゃなくても響く言葉がたくさんあると思いました。道はたくさんある！そして親が成長すれば解決することたくさんある！

・素敵なお話をありがとうございました。掃部さんと色々な共通点があるな～と思いながら聞いていました！不登校になった当初はもうダメだ…と絶望していましたが、この世界にはたくさんの人がいるし、色々な可能性がある。だからこういう辛かった思い出もこれからの人生で糧にできたらいいなと思いました！

・参加させていただきありがとうございました。掃部さんの不登校経験は興味深かったです。あの無気力になっていたのは何だったのか？なぜ日大の芸術学部なのかがもう少し知りたかったです。

・なかなか聞けないお話をきけて、安心もしました。人数が多く、質問してる方も同じ境遇なんだとか同じ悩みあるんだあとか思えることもあり、1人じゃないんだなと思いました。もっと時間あったらもっと聞けるお話もいっぱいあったのかなあなんて思います、ぜひ次も開催お願いしたいです。ありがとうございました。

【添付資料C】

ウェブサイト画像（スマホサイトより）

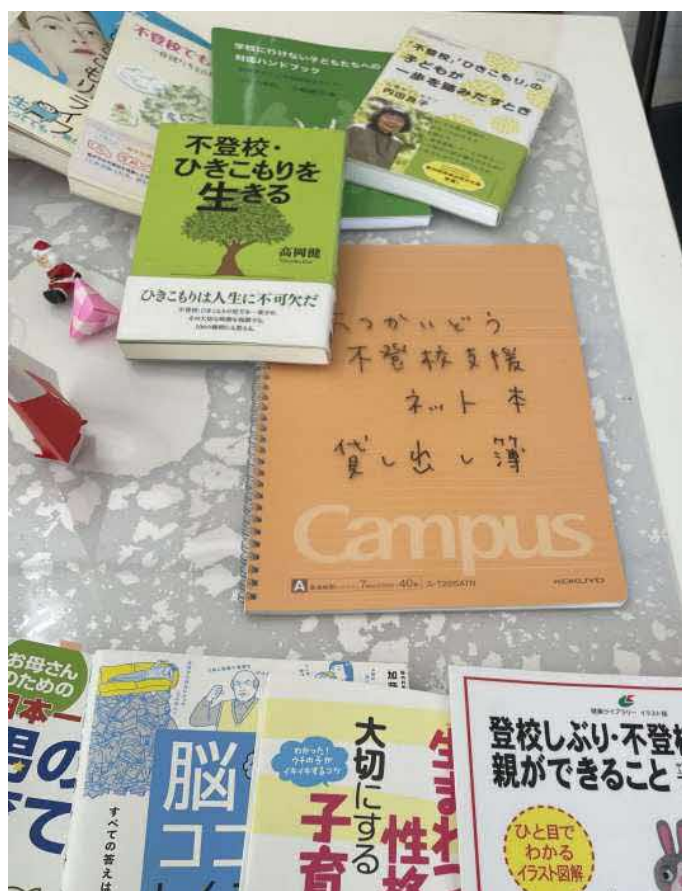


【添付資料D】

購入した書籍（親の会での活用例）



（↑地域福祉館おしゃべり会にて）



（↑親の会おひさまクラブにて）

四街道市みんなで地域づくりセンター 業務報告

(令和6年度 四街道市地域づくりコーディネーター業務委託事業報告)

四街道市みんなで地域づくりセンター

業務責任者 勝又恵里子

I. 施設利用状況

内容	年間		年間
開館日(日)休館日の開館2日含む	219	講座・講習会などの開催回数(休館日含む)	23
打合せ・相談等延べ人数 (人)	1193	講座・講習会などの参加人数(休館日含む)	367
1日あたり利用者数(人)	6	※今年度から、市の方針により施設利用状況のカウントの仕方の変更があり「来館者数(講座参加人数含む)」から、「打合せ・相談等延べ人数」と「講座などの参加人数」と分けてカウントすることとなった。 ※8月13日(火)～15日(木)夏期休業 ※8月16日(金)台風7号接近による臨時休館	
新着情報 (件)	457		
相談件数 (件)	116		
みんなのテーブル利用団体	88		
みんなのテーブル利用人数(人)	693		

【コーディネーター会議 22回】4/12、4/23、5/21、6/19、6/28、7/16、8/9、8/27、9/10、9/27、10/11、10/25、11/8、11/19、12/13、12/27、1/10、1/24、2/14、2/28、3/14、3/28

II. 講座・企画事業の開催

A. 地域課題解決に向けた取り組みに関する具体的な実施方法について

(1) コラボ四街道申請と採択後の支援

① みんなで地域づくりセミナー

日時	内容	参加人数	場所	備考
6月14日	広報編 「チラシ持ち寄り大会」あなたのチラシ、それでいいの？」 【目的】 ・チラシ制作における改善ポイントを学び合い、より効果的なチラシの作成を目指す。 ・地域団体の活動の活性化 ・地域団体の交流 ・コラボ四街道申請につながるアイデアの種を拾う 【内容】 ・チラシ作りの基本って何だろう(ミニレクチャー) ・どう見えてる？アナタのチラシ(意見のシェア) ・プロにはどう見える？あなたのチラシ(デザイナーからのワンポイントアドバイス) 1団体1点、後日送付 【成果・課題】 ・「チラシ制作における改善ポイントを学び合い、より効果的なチラシの作成を目指す」「地域団体の活動の活性化」「交流」について達成できた。 ＜アンケート結果＞ ・客観的な意見をいただくのがすごく大事で、いちばんよかったです。 ・あたたかく楽しい雰囲気でもとても楽しかったです！アドバイスもとてもためになりました！ ＜デザイナーからのワンポイントアドバイスについて＞ ・各団体のチラシについて「総評」「良い点」「改善を検討しても良い点」について具体的に丁寧なアドバイスをいただき、フィードバックした。	5	センター	参加者のほかにチラシのみエントリーが8人 市政だより6/1号
7月～	「個別相談対応スタート」 チラシ「コラボ四街道 申請サポートします」作成			
9月24日	・コラボ四街道の説明会 【目的】 ・コラボ四街道の概要や事例を知り、申請書の書き方のポイントを学ぶ。 ・申請に向けスムーズに手続きが進められるよう、申請(予定)者の質問や疑問に、市やセンターが答える場を設ける。 ・市民活動をサポートする立場として、参加者との関係性を強める。 【内容】 ・制度の概要説明、過去の採択事例紹介 ・コラボ四街道の申請書作成のポイント 【実施結果・成果】 ・申し込み9人、参加は7人、時間外1人。それぞれ、コラボ四街道の制度や申請のポイントを聴いて検討し、1団体が継続してコラボ四街道を検討。今後、申請希望の団体、やりたいことはあるが固まっていない団体には個別に対応。	8	センター	チラシ300部 市政だより9/15

10月～締め切り	・10月は、申請に関する個別相談受付を行った。 コラボ四街道に関する相談は、次年度以降申請に関する相談も含め7団体から延べ11件の相談があった。			
12/12 10:30～ 12:00	・コラボ申請団体向けパワポ講座 ・プレゼン準備 パワポのコツ！ ・事例を見てみよう ・資料づくりのコツ Before→Afterを見てみよう ・プレゼンテーション本番の様子 【実施結果・成果】事例を見ながらのレクチャーと質問でパワポが初めての人にも概要を伝えることができた。プレゼン資料提出まで期間があるので、各団体がこれを参考に作成し、質問は引き続き随時受け付けることとした。	7	センター	
1/21 10:30-12:00	・プレゼンリハーサル ・各団体、本番のプレゼンの時間通りの時間でプレゼンを行い、参加者が質問を行った。 【実施結果・成果】 ・参加団体:4団体 さとのたね、紫陽花プロジェクト、わくわくフェス実行委員会、みんなの教室 ・参加した団体は、提出や当日のプレゼンまで準備を行い、要点を時間の中でプレゼンできるよう準備した。 ・さとのたね、みんなの教室は、個別に相談対応を行った。(2/1、13みんなの教室、2/6さとのたね)	7	センター	

(2月10日 市へプレゼン資料提出×切 2月17日 公開プレゼンテーション)

- ・3月中に採択団体2団体から、広報(チラシの学校等への配布方法)と市政だよりの書き方について相談があり対応した。
- ・次年度の計画の中で、コラボ四街道申請サポートについて検討をした。

②コラボ四街道採択後の支援 (進捗の把握、相談・サポート、取材・広報など)

〔令和6年度事業実施団体〕 よつかいどう福祉会、おむすびっこ、よつかいどう不登校支援ネット

- ・市政だよりに掲載に向け、コラボ採択団体の紹介向けの取材を行った
- ・「コラボ四街道」の事業報告書作成について、様式、領収書の扱い、計画変更等手続きなどについてサポートした。

・よつかいどう不登校支援ネット「不登校支援ハンドブック」紹介・配布

センターで配布:10/15市政だよりで告知後、センターに取りに来た人に対応した。

ハンドブックは、小学校・中学校全家庭、病院、公民館にも配布している。

1月18日講演会「不登校だったぼくが 動き出したきっかけ」をセンターFacebookに掲載して広報した。

(2)地域の高齢化の中での課題に対する支えあいの活動

地域支え合い推進会議に参画し、地域包括支援センターをはじめ関係機関と協力する

・四街道の支えあい100人情報交換会⑥ 9月1日 (センターは協力)

【連携】 主催:四街道市地域包括支援センター(社会福祉協議会)

協力:医療法人社団まごころ、みんなで地域づくりセンター

【テーマ】おせっかい最高!! ～孤立、孤独から繋がりささえあう地域へ～

【内容】栗山県営住宅の居場所づくり(栗山県住の孤独死問題から始まったサロン「まろん」の事例

協力者インタビュー、個人情報保護法の誤理解の解消について、役立つ講座の情報提供

【実施結果】参加:会場・オンライン144人 (うち市内107人)

センターは、りんごの樹で、発表者とみらいボランティアとの昼食交流後、サテライト会場の1つとして、ZOOMで参加。(スタッフ:くらしサポートセンターみらい、センター)

・四街道の支えあい100人情報交換会⑦ 3月10日 (センターは協力)

【テーマ・内容】認知症になっても安心なまち 四街道を作ろう

・まちカルテの紹介 ・認知症地域支援推進委員からの報告 ・四街道高校 JRC取り組み

・地域医療の実践と地域とのつながり ・四つ葉プロジェクト ・参加者の意見の共有

※企画準備の打合せに参加し、コーディネーターが事例紹介の動画のナレーションの協力も行った。

【実施結果】参加:会場・オンライン144人

・畑楽農園(鷹の台)での「みらくる農園」の活動

【経過】

・7月10日、みらい、地域包括センターから、支援する人が、家から出て活動できる場所を畑(畑楽農園)に作りたい、との相談があり、協力することになった。
 ・くらしサポートセンター「みらい」の「みらくるデイ」(就労準備支援)として活用し、地域包括支援センター(軽度認知症支援)、障害者相談支援ひだまりも連携。畑楽農園は、(社福)よつかいどう福祉会 はちみつの生薬栽培の他、農福連携や様々な人の活用を目指している。
 ・11月26日 「みらい」の「みらくるデイ」を活用して活動スタート。
 ・12月21日 収穫体験、豚汁など。支援者は、みらいから3人、包括から1人。
 地元、鷹の台おたすけ隊は、落ち葉を畑楽農園でたい肥に、参加者はトイレや駐車場の借用させて頂くなどの連携が進んだ。

【実施結果・成果】

11月、12月の活動を経て、畑楽農園の1区画を「みらくる農園」として借りられることになった。
 くらしサポートセンター「みらい」、地域包括支援センター、障害者相談支援「ひだまり」の支援している人達が、社会参加の第1歩を踏み出す場所、認知症が気になる方と家族と一緒に掛付けられる場所、自分らしく自然体で過ごせる場所を目指して月1回活動できることになった。
 ＊現在までの成果:進んで参加したり、参加者同士のコミュニケーションの場となるなど、畑の活動がよい結果に結びついている。

・52間の縁側のいいさん家見学会 ※八千代市米本にある通所介護事業施設

日時	内容	参加	場所	備考
3/13 10:30-13:00	【目的】 「老い」や「障がい」「子ども、大人」「支援する側、される側」のような壁はなく日常を過ごす福祉施設を見て思いや仕組みを知る機会をつくりたい。 【内容】 10:30 現地到着、挨拶、施設見学(1時間半程度) 11:30 先方担当者と質疑応答、交流 参加者交流ランチ会 【実施結果・成果】 ※「老い」や「障がい」「こども、大人」、「支援する側、される側」のような壁はなく、ふつうの日常を過ごす豊かな環境を見学しスタッフから詳しい説明を聞くことができた。 センターの呼びかけたメンバーのほか、地域包括支援センター、くらしサポートみらい等にも声を掛けて参加があり、高齢者支援、就労支援、農福連携、まちづくりに関わる関係機関や市民の方と見学をして、参加者同士の交流の機会となった。	10	52間の縁側のいいさん家(八千代市米本)	他スタッフ2人

(3)自治会の担う地域の活動の支援

・自治会は災害が起きた時に避難所運営に当たることなどの課題あるので、災害支援の講座について参加を呼び掛け自治会の活動のサポートとする。

実施結果:

・6月19日の「避難所でのペットの受け入れ方講座」について、お知らせを送り、自治会から15人の参加があった。
 ・2月12日避難所運営委員会立ち上げの研修について、自治会に参加を呼び掛け意見交換する場をつくった。実施後、立ち上げについて検討する地区が出るなど好評だったため、次年度もこれに続く機会をつくりたい。

(4)外国人との交流や支援

市内在住外国人との交流や災害時の支援などについて、四街道市国際交流協会等の関係団体・機関と連携する市の事業として:多文化共生に関して、市民意識調査、プランをつくる、災害時外国人支援等の課題あり。

リバモアとの交流(10月受入れ、3月訪問)

実施結果と課題:アフガニスタンの学童の学習支援をしている人からの相談や、アフガニスタンの人からの就労に関する相談に対応し、それぞれ担当課、くらしサポートセンター「みらい」へつないだ。
 今年度、センターの企画事業として、外国人の交流や支援などは実施できなかった。今後は、国際交流協会との情報交換の場をつくることから始めたい。

(5)みんなのアート ～アートで地域づくり～

日時	内容	参加	場所/参加人数	備考
準備 4～6月 WS 7/6①②、 7/25③④ 8/18⑤	「みんなでつくろう四街道マップ」 【目的】 子ども、障がい者、高齢者など誰でも楽しめるアートを通じて、地域づくりに参加する機会を提供する。 【内容】 ・四街道高校美術部には下地となる四街道の地図作成、特別支援学校には地名や施設名のプレートづくりを 協力していただき、打合せと作業を進めた。 市の地図に好きな場所や思い出の場所など「四街道のおすすめスポット」を描く。みんなの思いがこもった手書きの地図で四街道の魅力を再発見する。 ①地図の準備 四街道市の白地図を用意し、四街道高校美術部、特別支援学校などと連携し、地図の下地を作る ②ワークショップ テーマ「四街道おすすめスポットを地図上に描く」 四街道高校美術部(マップの下地を描く)		WS 文化センター 和室およびセンター	連携: 四街道高校美術部、 特別支援学校
	特別支援学校(地名のプレート作成)		12	←連携・協力
			50	←連携・協力
	センターと出張ワークショップ センターでのワークショップ①9、②5、③17、④25、⑤6 出張ワークショップ 図書館将棋イベント12・プレーパーク5、さとくらしプレーパーク10、市役所10、子ども商店街45、千代田近隣プレーパーク20、旭中学区5、わろうべの里10、旭小学校学童50	229		
その他	ユニバーサル農業フェスタ15、どんぐりの森25、さとのたね10、市役所職員35、MOGU15、房の駅1、かごや食堂3、総合公園4、桜井ファーム1、千代田保育所11、その他110		230	←ワークショップ以外のアート参加者
	この活動の全体の参加者 (準備+ワークショップ+それ以外のマップ参加) 合計		521	

12月2～1月7日 市役所庁舎入口の掲示

市のFacebook12月6日、ライン12月10日に掲載していただく

毎日新聞(取材・掲載)ケーブルネット296(取材・放送)、読売新聞(取材)などが行われた

1月28日～2月3日 千葉そごう地下通路に展示(部分)、2月6日～特別支援学校(3月5日まで)で展示する。

・図書館外の掲示板の絵:図書館との連携(協力) 中央小学校学童でのワークショップ実施 12月24日

(6)相談対応から地域づくりにつなげる(地域づくりを担う主体からの相談に関すること)

・相談件数は過去3年間で最も高くなっています。昨年と比較して、分類別で特に「コラボ四街道」にすることが増えています。

2024(令和6)年度 116件(上期62 下期54)

2023(令和5)年度 99件(上期28 下期71)

2022(令和4)年度 89件(上期34 下期55)

分類	相談件数	相談例
地域の情報問合せ	30	・市政だよりに掲載してあった、ファイバーリサイクルの回収場所を教えてください。 ・支援学校に入学するが制服がないため、学生服になるような洋服を扱っているところはないか。 ・イベントのパフォーマンスの出演団体と、製品を使用した商品開発の依頼先を探している。 ・家族の認知症が進んで、本人に自覚がないので、ふらっと行けるようなところを知りたい。
「コラボ四街道」に関すること	27	・コラボ四街道の概要を知りたい。実施する事業についてコラボ四街道を活用できるか。 ・事業の企画、申請書の書き方、予算の立て方、自己資金の扱いについてなど知りたい。 ・パワーポイントやプレゼンの仕方について教えてください。 ・採択後、広報(チラシの配布や市政だよりへの掲載)について

地域の課題・活性化	19	・新学期で、子どもが学校に慣れない悩みがあり話ができる場はないか。 ・ごみ収集の場に着物が捨てられていたが、ゴミにたくない、集める方法や機会はないか。 ・公園の田んぼが荒れてしまうので整備をしたい。稲作について教えてくれる人はいないか。 ・平日昼間の居場所事業を始めたい。不登校支援の団体の話を聞きたい。 ・ブラインドサッカー、パラスポーツや視覚障害について知ってもらふ機会を作りたい。
市民活動団体の運営	12	・講座開催の場所が机・いすが非常に重く大変、設備が整っている施設の部屋を利用したい。 ・子ども食堂から。今、お米がない。食材費が負担になっている。 ・スタッフが足りていない。作業を手伝ってくれる人を探している。
IT・パソコン	10	・年度が替わる時期で、市民団体から会計処理や資料作りのためのパソコン操作を相談した。(複数相談あり) ・団体情報の更新について。パソコンができる人がいないのでどうしたらよいか。
活動への参加	4	・子どもたちとつながることで、ボランティアで何かできることはありませんか。 ・子ども食堂をいつか開きたい。(こども支援交流会に参加。会の後相談)
自治会の運営	1	自治会の法人化について検討している。法人化された自治会の規約を閲覧し、参考にしたい。
会計・税務	1	団体の会計について。費目分けと入出金の齟齬の処理方法について。
その他	12	・小学生から。視覚障害について調べているので情報がほしい。 ・みんなで地域づくりセンターの団体登録はどのような形で作っているか。他市の状況を参考に聞きたい。 ・市内在住のアフガニスタン人から。仕事(アルバイト)を探している。

●相談対応件数 延べ 116 件 (相談者:市民86、事業者9、行政・関係機関21)

(7)学校等、行政および関係機関との連携・協働

①大学・高校との連携

・愛国学園大学「大学生も地域とつながろう！プロジェクト」

大学より、大学生が地域とつながりながら学び合う機会を持つプロジェクトの体験先紹介の依頼がありコーディネートした。

体験先:

- ①児童発達支援事業所・放課後等デイサービスハニーキッズ四街道園 5月30日(学生5、教員1、スタッフ1)
- ②デイサービスのどか、就労継続支援B型「のどかファーム」 6月6日(学生3、教員1、スタッフ3)
- ③ひみつのおしゃれ工房 6月20日(学生4、教員1、スタッフ2)
- ④四街道市立中央小学校あおばルーム 7月4日(学生4、教員1、スタッフ1、担当課職員1)

学生が夏休みボランティアで子どもたちと交流する機会をつくった。 8/6、8/27

振り返りの会 7月18日(学生5人、教員、ひみつのおしゃれ工房)学生が1人ずつ、体験で学んだことを発表。

後期の活動:ひみつのおしゃれ工房については、団体と大学で進め、学生が団体の作業を体験して、PR動画を創る取り組みを行なった。

・淑徳大学「四街道市みんなで地域づくり推進プロジェクト」2024

学生が市内の市民団体の活動に参加して、四街道市の地域づくり(=市民協働)を学び、学生の目線から活動に対する意見や課題等を団体にフィードバックすることで、学生が地域づくりに参加する機会をつくる。(大学と市との連携・協働)

センターの協力内容:団体との調整等・学生が市民活動に参加した際の同行・成果報告会への参加

1月28日淑徳大学で報告会(コーディネーター1名参加)

※次年度

センターが大学と連携して取り組むことについて打合せを行ない、「こども支援」「災害支援」「ユニバーサル農業フェスタ」などに、企画から関わるプロジェクトとすることとなった。

○その他の大学・高校との連携

・アートの活動では、四街道高校美術部、特別支援学校に協力があつた。

・大きなテーブルのイベント開催には、愛国学園大学6人、土気高校1人、敬愛高校2人、中学生1人、高校卒業生1人、情報大学から複数のボランティア参加があつた。

・ちばユニバーサル農業フェスタでは、ボランティアセンター、子ども会育成連合会から学生の参加があつたほか、四街道高校野球部10人がボランティアに参加した。

②関係機関等との連携・協力

(2) 地域の高齢化の中での課題に対する支えあいの活動について

- ・よつかいどうの支えあいの100人情報交換会の開催に協（地域包括支援センター、医療法人社団まごころ との連携）
 - ・みらくる農園：地域包括支援センター、くらしサポートセンター「みらい」、障害者相談支援事業所ひだまりとの連携
- イ(1)子ども支援ネットワークなどの事業の中で、様々な団体、機関と連携を図って進めている。

イ.地域づくりを担う主体のネットワークづくりに関する具体的な実施方法

(1)子ども支援ネットワーク

【子ども食堂（地域食堂）について】

- ・昨年度12月の子ども食堂交流会以降、団体同士で情報交換を行ったり、センターがつないだりした。
- ・子ども食堂ネットワークについて、連絡の取りあえる形としてライングループをつくり、呼びかけを継続して行った。
- ・12月2日 四街道市内の子ども食堂のネットワークの持ち方について話し合い、センターは、ネットワークを運営していくうえでの伴走支援をしていくこととした。
- ・ネットワークについては、子育て支援課とも意見交換を行い、今後の進め方を検討していく。

〔新規立ち上げの子ども食堂へのサポート〕

- ・おむすびっこ食堂 コラボ四街道事業（桜が丘会館 14:00-夕食提供は16:00-20:00）
2月28日、3月27日にプレオープンを行い、地区社協やボランティアスタッフが協力。4月からコラボ四街道の事業としてスタート。月1回最終木曜日実施
- ・ふじわらっこ食堂（藤原小児科）
プレオープン3月26日（火）の振り返りを踏まえ、時間制3回、春休み3回。
多数の参加者の中に、子ども食堂に来てほしい、自身や家庭に困難を抱えていると思われる子ども複数参加していた。
- ・カルディア食堂 第1回 9月9日スタート16:00-18:00 旭公民館調理室 毎月第2月曜開催。

・発達なんでもおしゃべり会

日時		参加	場所	備考
12月7日 10:00- 12:00	【目的】 ・市内で発達グレーの子どもを持つ保護者の悩みを共有する場とする。 （背景：現在市内では悩みを共有する場がない。 ・センター発案、図書館主催で行った「発達凸凹（でっこぼっこ）」参加者の、継続開催への要望があったが実現していない。） 【内容】 ・日頃思っていること困っていることなど、ざっくばらんに話し合う場をつくる。 ・対象 発達に心配のあるお子さんがご家族にいる方 （子育て世代だけでなく、まご育て世代の方も参加してもらう）	2	文化センター 和室	11/15市政 だより 参加費：無 料

【実施結果・課題】

- ・ニーズはあった（会があったら参加したいという声を個別に寄せられていた）ものの、参加者が想定よりも少なかった。多忙な12月ではなく、夏休み前などの方が悩みを抱えた家庭とつながりやすい可能性があり、継続実施する場合は時期の見直しが必要。

・「こども支援交流会」

日時	内容	参加	場所	備考
2月26日 10:00- 12:00	【目的】 ・市内の団体の活動状況や子ども支援に関心のあるS民の情報を集め、今後の方針に役立てる。 ・参加者にとっても、互いの活動を知り、活動のモチベーションにつながり、協働を生み出す場になるような内容としたい。 1. はじめに 交流会の趣旨説明 2. こども家庭センター設立について（子育て支援課） 3. 各団体や個人の活動紹介 4. おわりに センターからのお知らせ（次年度「こども万博」について） 5. 自由交流	22	文化センター 和室	

【成果と課題】

- ・参加者の感想「こども家庭センターについての説明を聞くことができてよかった」「他の団体とつながることができた。こういう機会に、もっと様々な団体とつながりたい」などの声があった。
- ・センターとしては、顔を見て交流できたので、団体に声をかけやすくなった。
- ・参加して次のステップに進むことができた人がいた。
（こども食堂を始めたいと思っている人が、他の団体の活動に参加できることになった）

◆次年度の事業について企画・準備を行った

- ・「こども万博」 5月11日 10:00-14:00
「夢見る小学校 完結編」上映会とフェア （上映会は5月13日も実施）
- ・こども主体のワークショップ 8月4日（準備8月2日・3日）
- ・印旛地区子ども食堂ネットワーク
研修会「安心安全なこども食堂・居場所とは」6月25日
会場は四街道市文化センター。

(2) みんなで災害支援ネットワーク

①災害支援講習会

日時	内容	参加人数	場所	備考
6月 19日 13:30-15:30	避難所でのペットの受け入れ方講座 【目的】 ・災害が起きた時に、避難所では、要支援の方、外国籍の方、障害を持った方、乳幼児を連れてきた方など、様々な課題の受け入れに対応する必要がある。 その中で、避難所での重要な課題のひとつである、ペットを連れてきた方の避難について学ぶ講座を行う。 【内容】 災害時に避難してくるペット同伴の被災者をどのように受け入れ、誘導すべきかなどを学ぶ。 ・和良比小避難所運営委員会の事例報告 ・ペットと一緒に避難してきた人を避難所で受け入れる時の運営側の視点 講師 日本ペット飼育協会 対象 市内在住でペットとの避難に関心のある方 （避難所運営委員会、これから立ち上げるところ、その他）	27	文化センター 206	市政だより 5/15号 ・ネットワー クラインと メール、 Facebook
	【実施結果・課題】 <アンケート結果より> 27人提出(27人参加) 講座の理解度について ①今なぜペット受入れ避難所が必要とされているか よく理解できた+理解できた 26(96%) あまり理解できなかった1 ②ペット受入れ避難所の基本理念 よく理解できた+理解できた 26(96%) あまり理解できなかった1 ③ペット受入れ避難所設置と運営の具体的手順 よく理解できた+理解できた 21(78%) あまり理解できなかった4、 理解できなかった2 ④運営管理者の役割と責任 よく理解できた+理解できた 22(81%) あまり理解できなかった3、 理解できなかった1 ⑤飼育スペース開設・管理手順 よく理解できた+理解できた 18(67%) あまり理解できなかった5、 理解できなかった2 ※理解できなかったところ（記述） ・収容できる人数が少ない中で、多くの人が避難してきた場合どう対応すべきか ・人とペットを分けて受け入れた場合、ペットの管理場所を設置しないと いけないと思うが、そのノウハウについて知りたい			

・和良比小避難所開設・運営訓練 見学

11月24日(日)8:00~12:00（コアメンバーにも声掛けして、センターから2名が参加。ホームページ、Facebookに報告を掲載した。

- ・和良比小避難所運営委員会(役員、活動半班員)、ボランティア、地域住民が参加
- ・市から危機管理監、危機管理室、避難所配備職員が参加
- ・他の自治会からの見学も40人余りあった
- ・災害の発生を想定し、避難所開設、避難者受入れ、生活環境設営、物資配布などの訓練があり、見学した。

・避難所運営委員会 立ち上げの研修

・研修の実施時期・内容について危機管理室との打合せ(8月9日)
市では6/15に防災・災害支援講座(自治会向け)を実施、11/24避難所開設・運営研修(和良比小の訓練見学)を実施予定なので、その後立ち上げに向けてのサポートや機運を高める場として企画する。

日時	内容	参加	場所	備考
2月12日 (水) 13:30～ 15:30	「あるといいよね！避難所運営委員会」 ～避難所開設・運営 意見交換会～ 【目的】 「和良比小避難所立ち上げ・運営訓練見学」を受けて、自治会の避難所運営委員会立ち上げ検討の助けとする。 【内容】 ①事例紹介 ・和良比小避難所運営委員会 活動歴10年以上 ・桜ヶ丘区・桜ヶ丘中央区避難所運営準備会(避難所:千葉敬愛高校)」活動歴5年 避難所運営委員会をどうしたら立ち上げられるのか、立ち上げたばかりの運営委員会をどのように運営したらいいのか ②グループでの話し合い ・4グループ(1グループ8人程度) ・避難所運営委員会立ち上げのヒントと課題 について ③意見交換(グループで出された課題について意見交換)	33	文化センター204・205	チラシ 市政だより 1/15 自治会への案内送付 ※15か所の避難所からの参加
	【ヒントになったこと】 ・危機管理室には運営マニュアルなど参考になるひな型がある。 ・自治会や運営委員会の役員だけに頼らず、ボランティアを呼びかけると任期に関わらず関わってくれる人が増える。 ・防災士資格取得への助成金が出る。防災士を増やすと立ち上げに意欲的な人が地域に増える。 【課題と思うこと、解決のヒント】 ・体育館以外の学校施設を使えるの？使うにはどうしたらいいの？ →学校と話す場を持ちましょう。(メンバーに学校職員の名前のあるところもある) ・地区の防災担当が1年で変わってしまう。 →任期に関わらないボランティア役員を募集してみましょう。 ・自治会加入率の低下で人材確保が難しい。若い人の参加が少ない。 →顔見知りを増やし、横のつながりを作っておくことが大切。 盆踊りや季節の行事にお手伝いで参加する人たちとつながってみてはどうでしょうか。 ・マニュアルや役員名簿ができた後、どうしたら運営委員会が立ち上がったことになりますか。 →各地区の自治会に承認をもらい、危機管理室に届け出てください。 【まとめ】 ・避難所運営委員会は「ある」と「ない」とでは大きな違いがある。 ・士気の高い人から始まっていい。とにかく始めることが大事。 ・結局は人のつながりで成り立つ。人と人のつながりを大切にしましょう。			
	【成果と課題】 [アンケート結果]回答30/33人中 ・今回の意見交換会について:①事例報告 ②グループでの話し合い ③意見交換 の3項目とも、「とても参考になった」と「参考になった」で、28～26人あり、参考になったという声が多い。 ・開催後、立ち上げの機運が高まったという地区もあると聞かれる。 ・避難所運営委員会は、まだ立ち上がっていないところが多く(現在は8/27カ所)、今回のような機会は必要と思われるので、次年度も取り組みたい。			

(3)地域の多様な主体が参加しつながりや連携を進めることを目的にコーディネートしている事業

・大きなテーブル出展団体を対象 販売基礎研修

日時	内容	参加人数	場所	備考
4月18日	・福祉事業所 イベント販売等における 販売基礎研修 【目的】 福祉事業所の販売現場を再現して、陳列等のアドバイスを直接指導いただき、参加者と情報を共有し、「大きなテーブル」において活かせるようにする。 【内容】 講義と陳列のアドバイス 講師：日本商業施設士会HM販売研究会 5名 対象：「大きなテーブル」参加事業所の販売実務担当者 陳列モデル：4団体(どんぐり工房、ピース、ワークショップ四街道、のどかファーム)がアドバイスを受ける。 主催：(提供)千葉県障害者就労事業振興センター 協力：みんなで地域づくりセンター 【成果・課題】 販売においてどのように商品の良さを伝えるか、陳列のモデルに対する改善例から具体的に理解することができた。 大きなテーブル当日も、研修が活かされ、お客さんが求めやすい陳列に改善されているところが複数見られた。 ・講師から当日の開催状況へのアドバイス：来場者がたくさん来ていた。出展者は講座で学んだことを活かしてしていた。早くに完売のところが見られたので商品の量を増やしたほうがよい。	17	文化センター203	

講座等 参加者合計 367

①福祉施設紹介・販売フェア 大きなテーブル（第24回）

日時：5月18日(土)10:00～14:00 前日準備5月17日 場所：文化センター前広場および展示ホール
出展：25ブース(福祉19団体、協賛団体7団体) 子どもが楽しめるワークショップ、学生服リユース(回収)
主催：大きなテーブル実行委員会、共催 地域振興財団 事務局 センター内
ボランティア参加：ボランティア14人(大学生・高校生11人成人3人)＋情報大8人
後援：四街道市(障害者支援課) ・市政だより4/15号、ちいき新掲載、WEBスタット、ぐるっと千葉WEB
【実施結果・振り返り】 来場者1150人、売上総額854,210円（前年81,3670円）
【出展団体 アンケート結果】 次回も参加したい23、検討する2
感想：にぎわっていてとても楽しめた。
活気があるイベントでたくさんの来客があり、売り上げと商品のアピールにつながった。
団体のメリット：事業所の作業(作品)を実際に見ていただくことができた／他団体や地域関係者との交流
【まとめ】
よかったこと ・新規団体も含めつながりができた ・ボランティアの活躍 ・子どもワークショップ
課題 ・屋内への流れをつくる→ブースを増やす ・休憩場所 ・昼食になる食品を増やす
・午後の来場を増やす企画を検討する
【次年度】第26回大きなテーブル 5月31日屋外＋展示ホール 実行委員会①1月15日 ②2月27日

②ちばユニバーサル農業フェスタ 開催日程 11月16日(土)

・ちばユニバーサル農業フェスタ2024in四街道
・主催：ちばユニバーサル農業フェスタ実行委員会
(事務局：NPO法人地域創造ネットワークちば、センターは、現地事務局としてコーディネートする)

・日 時：2024年11月16日(土)10:00～14:00(開会式9:45～)
・会 場：四街道市文化センター 前広場、ホワイエ、展示ホール

・趣 旨：ちばユニバーサル農業フェスタは、千葉県内の農地を守ることを目的として、農業者、地域住民、障がい者、高齢者、子どもなど「みんなで関わる農業＝ユニバーサル農業」の考えを広め、出会いの場を提供する。全国有数の農業県である千葉県から、そして開催地 四街道市から、「農業の持つ可能性」や「農の価値」を社会に発信する。
会場内では、四街道市の新規就農相談受付や農業の情報の提供、農福連携の紹介なども行う。

・来場者数：1100人 売上合計：1,144,080円(2023は94万) 出展団体からの寄付32,200円
・出展ブース数：33ブース(屋外18、ホワイエ10、展示ホール5)
・出展団体 農業に関わる団体・個人、福祉団体、NPO・市民グループ、生協など
・後 援：千葉県、四街道市、四街道市教育委員会、四街道市社会福祉協議会、千葉県生活協同組合連合会
・協 賛：生活クラブ生活協同組合、社会福祉法人生活クラブ、一般社団法人千葉県労働者福祉協議会
・千葉県県民活動PR月間 2024 賛同行事

- ・企画内容について
 - 農産物・加工品・菓子等(パン、ケーキ)、手作り雑貨・工芸品など販売・展示
 - 子ども向けワークショップ(みんなで地域づくりセンター、ボランティア)
 - 新規就農相談(産業振興課)／農福連携紹介(千葉県障害者就労事業振興センター)
 - ユニバーサル農業クイズラリー(出題は出展団体から)
 - 出張フードライブ(廃棄物対策課)／障がいのある方の就労・困り事相談(就職するなら明朗塾)
- ・広報
 - チラシ作成 12,000部
 - 市政だより掲載10/15、県民だより掲載11月号(チーバくんの今日はどこいく?)
 - ニュースリリース(東京新聞・読売新聞お知らせ掲載、ケーブルネット296・千葉テレビ当日取材)
 - ブログ・Facebook、Instagram掲載
- ・ボランティア
 - ボランティアセンターから4人、子ども会育成連合会から3人、四街道高校野球部(10人)

〔出展団体アンケート集計結果 (概要)〕

- ・フェスタ全体の感想:大変よかった21 まあまあよかった12、よかったとはいえない0
- ・出展のメリット(自由記述):認知度(商品・活動を知ってもらえた)PR できた13、来場者・団体同士の交流・つながり11、その他(利用者の体験、地域貢献・啓発、スタッフの励みなど)
- ・活動する上での課題は?:運営スタッフ15、販路の拡大11、農業・栽培技術4、その他4(栽培面積の拡大、加工の依頼先)
- ・次年度以降の出展の意向:参加したい22、検討する9、参加しない2

○12月3日 実行委員会振り返り

〔開催内容・運営について〕

- ・今年は四街道市特産品協議会の出展があつてよかった、今後も農業者の出展を増やしたい。
- ・「ユニバーサル農業クイズラリー」で来場された方達の学びやコミュニケーションの機会につながっていると感じた。
- ・野球部高校生などボランティアが活躍されてとても頼もしい高校側でも高校生が地域の力になってほしいという思いがあり、お誘いはありがたいと言われた
- ・いつも室内での作業なので、利用者さんから屋外での販売が楽しかったとの声があった。
- ・運営の課題は、駐車場人員確保、飲食スペース確保、ホワイエ側の受付設置、トイレ等表示 など。

○県民だより11月号「チーバくん今日はどこ行く?」に掲載され、意見・感想が777件(意見総数5763件中)あったことについての連絡があった。内容は「行ってみたい、新鮮な野菜を買いたい、ユニバーサル農業に興味があり、SDGSの観点からも積極的に関わりたい」など。

〔次年度の開催予定〕 2025年11月15日(土) 屋外＋展示ホール(展示ホールは8/1確定)

・10月17日第3回実行委員会13:30 出展説明会・交流会14:00～

「販売のポップ研修」を実施 講師:千葉県障害者就労事業振興センター(緒方ともみさん・東恵笑さん) 34人参加

ウ.地域づくり情報の収集、HPやSNSを活用した情報提供について

(1)情報誌「みんなで」コラボ四街道採択事業とセンターの取り組み

8月1日号	市政だより掲載	コラボ四街道 令和6年度採択3団体の事業とセンターの紹介
11月15日号	市政だより掲載	みんなで地域づくりセンターの取り組みの紹介
3月	「みんなで」	みんなで特集号 (A4版 テーマはこども食堂「こども食堂マップ」掲載)

・センターのリーフレット作成 印刷・活用は次年度から

(2)ホームページ及びSNS等への掲載について

- ①ホームページ リニューアル実施 今後はスタッフが更新を行いよりタイムリーで効果的な発信を目指す
- ②Facebookいいね! 908(昨年度900) フォロー1116(昨年度1088) 年間投稿数168件(昨年208件)
 ブログ41件(昨年度27件) インスタグラムフォロワー246(昨年度192)
- ③団体基本情報 74団体(昨年度末83団体 解散や連絡が取れないところなどを削除したため減少している)

エ.地域課題解決に向けた各種講習会に関するスケジュール、実施方法について

ア.地域課題解決に向けた取り組みに関する具体的な実施方法について および

イ.地域づくりを担う主体のネットワークづくりに関する具体的な実施方法 のところで記載

(別紙 業務スケジュール(実績) 参照)

令和6年度四街道市地域づくりコーディネーター業務委託事業報告（写真編）

コラボ四街道申請と採択後の支援 ＜みんなで地域づくりセミナー＞

チラシ持ち寄り大会「あなたのチラシ、それでいいの？」6/14



＜みんなのアート＞

みんなで作ろう四街道マップ
四街道高校美術部・特別支援学校
（地図の準備）



コラボ四街道の説明会 9/24



ワークショップ 14回
＋カード配布で
延べ 500 人の参加



市政だより 8/1 号
令和6年度採択事業の紹介



パワポ講座 12/12



*プレゼンリハーサルは 1/21

新庁舎での展示 12/2-1/7



＜地域の高齢化の中での課題に対する支えあいの活動＞

四街道の支えあい 100 人情報交換会⑥9/1⑦3/10（協力）

地域包括支援センター
医療法人まごころ との連携



＜大学との連携＞

愛国学園大学・淑徳大学



みらくる day から「みらくる農園」の活動へ

畑楽(はたらく)農園と
くらしサポートセンター「みらい」、
地域包括支援センターとの連携



52 間の縁側のいっしきさん家
見学会 3/13



<子ども支援ネットワーク>

新規立ち上げの子ども食堂サポートとネットワークづくり



こども支援交流会 2/26



令和7年度開催
「こども万博」企画準備と広報



発達なんでもおしゃべり会



12/7

「みんなで」
こども食堂特集号



<災害支援ネットワーク>

避難所でのペットの受け入れ方講座 6/19



あるといいよね！避難所運営委員会 2/12
(意見交換会)



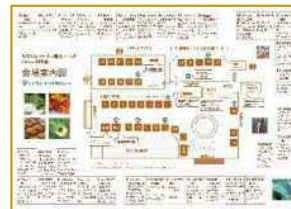
<地域の多様な主体のつながりや連携を図る>

福祉施設紹介・販売フェア「大きなテーブル」5/17

販売基礎研修 4/18



ちばユニバーサル農業フェスタ 2024n 四街道 11/16



<地域づくりの情報収取・提供>

←ホームページリニューアル

↓市政日より 11/15(センター紹介) センターでのチラシ配架



そごう千葉店写真展
「みんなで地域づくり」



四街道市みんなで地域づくりセンター令和7年度事業計画

(令和7年度 四街道市みんなで地域づくりセンター運営管理業務委託事業)

(1) 相談窓口業務および様々主体とのつながりについて

- ・相談・提案事項に対する情報のヒアリング
- ・対応の方向性の提案
- ・課題の共有・分析・解決に向けたコーディネート(様々な個人、NPO、自治会、企業、学校、行政関係部署等との連携のための対話の機会)
- ・市民団体の運営に役立つ相談、助言等(会計等)

① 相談対応

- ・センターが地域づくりに関わる様々な相談に対応する場として、広く広報するとともに、寄せられた相談に積極的な姿勢で丁寧に取り組み、地域課題の解決につなげます。
- ・市役所の各担当課および関係機関と連携して相談対応にあたります。
- ・コーディネーター等が、市の施策・制度や地域課題などについて学びます。また、相談対応力を高め、団体運営に関する相談に対応できるようにするため、研修会などで学ぶ機会を持ちます。

② 支えあい／健康まちづくりプロジェクト(多様な団体・機関との連携・協働)

- ・地域の高齢化が進む中、支え合いの担い手不足などの課題に対して、四街道市地域支え合い推進会議に参画し、地域包括支援センターをはじめ関係機関と協力します。
「よつかいどうの支えあい100人情報交換会」への協力
- ・市で取り組む「健康まちづくりプロジェクト」に参画し多様な団体と連携します。
- ・センターは、地域づくりに関わる多様な団体や市民とつながり情報提供をします。

③ 学校・関係機関等との連携・協働

- ・市内及び近隣の学校と連携し、若い世代が地域づくりに参加する機会をつくります。
淑徳大学「みんなで地域づくり推進プロジェクト」
大学生が、センターの事業「こども支援」「災害支援」「ユニバーサル農業フェスタ」の事業の企画・運営に参加し、市民協働や市と市民団体の関わり方を学ぶこと、及び市内の市民活動の活性化を目的とする
(コミュニティ政策学部 サービスラーニング活動)

④ アートを活かしたまちづくり

- ・子ども、障がいのある人、高齢者などだれでも楽しめるアートをとおして、地域づくりに参加する機会を提供します。
「ふるさとまつり アートでポイ捨てゼロ！」(準備・制作4月～7月、8月前半ワークショップ)

(2) 市民活動に関する情報の収集及び発信

- ・市内外の先進事例・市民活動支援等に関する情報の収集・蓄積・発信
- ・市民活動団体・コラボ四街道採択団体の活動状況の実態調査・報告(年1回)
- ・センターの基本的情報、協働事業・コーディネートに関することのHP・SNSやイベントでの情報発信

① 「みんなで」市政だより掲載・特集号等

- ・市政だよりによりコラボ四街道採択事業を掲載して紹介します。(市政だより8/15号)
- ・「みんなで」特集号等により地域づくりを応援する情報を発信します(3月センターの事業紹介等)

② 団体基本情報

- ・市民活動団体の基本情報をホームページに掲載して公開し、市民の関心と理解を深め活動への参加につなげます。
- ・基本情報の項目として「災害が起きたとき団体ができること」を加え、災害支援ネットワークづくりに役立てます。

③ HP、SNS等

- ・ホームページおよびSNSを活用し、イベントの告知や事業の報告などをタイムリーに掲載します。
- ・公共施設及び商業施設(そごう千葉店等)でチラシ・ポスターなどで情報発信します。

(3)市民活動に関する学習の機会及び相互交流の機会の提供等（7回程度）

- ・市民活動への参加促進を目的とした相談会、研修会、講座等の実施
- ・地域課題・社会課題の解決に向けたネットワークづくり及び継続の支援に関する講座等の実施

①市民活動の基礎講座

・四街道市の地域づくりには、より多くの市民の主体的な参加が必要ですが、現在活動している団体の多くは運営課題を抱えています。あらためて、団体の社会的な役割や運営資源について学ぶことで活動基盤を強化します。

上期 1)市民活動の社会的な役割 5月20日
2)市民活動の運営資源 6月24日
3)市民活動の法人格 7月8日
下期 広報講座 11月下旬 SNSの活用 3月上旬

②こども支援ネットワーク

- ・市内のこども食堂やこども支援団体のネットワークや交流の場をつくりサポートします。
「よっかいどう こども万博」5月11日 テーマは「こどもまんなか」
「夢みる小学校 完結編」上映 と こどものための楽しいフェア（5月13日上映会2日目）
夏休みこども主体ワークショップ 8月4日(8月2・3日準備)
- ・こども支援交流会 2月
- ・「安心安全なこども食堂・居場所とは」6月25日（印旛地区子ども食堂ネットワークの枠組み）

③災害支援ネットワーク

- 市民や団体、企業が連携して被災者支援できる関係を築くことを目指します。
- ・「みんなで災害支援ネットワーク」の活動を進めます。
支援リストの更新確認（団体基本情報に「災害が起きたとき団体ができること」を付記）
ネットワークの運営委員会（コアメンバー会議から名称変更）を中心に学習会・交流会等の企画・実施
「みんなで災害支援ネットワーク交流会」①6月28日 ②11月
 - ・避難所運営委員会立ち上げ支援の研修・意見交換会を実施します。
あるといいよね！避難所運営委員会Ⅱ（2月中旬）

④大きなテーブル／ユニバーサル農業フェスタ

- ・第26回 福祉施設 紹介・販売フェア「大きなテーブル」
日時：5月31日（土）10：00-14：00 場所：文化センター前広場および展示ホール
主催：大きなテーブル実行委員会 共催：四街道市地域振興財団 事務局：センター内
- ・ちばユニバーサル農業フェスタ2025in四街道
日時：11月15日（土）場所：文化センター前広場（および展示ホール 確定は8/1）

(4)市民活動に関する人材の育成、発掘や新たな市民活動への支援

- ・コラボ四街道の相談、提出書類の記入方法及びプレゼンテーション等の支援（年5回程度）
- ・コラボ四街道採択後の市民団体に対する伴走支援等
- ・市民団体、NPO法人設立・運営に関する相談・助言・情報提供

①コラボ四街道申請サポート

- ・市政だより6/15号掲載「コラボ四街道申請サポートします」6月
- ・コラボ四街道説明会・申請書書き方講座 9月24日
- ・個別相談会 10月（申請期間を通して受付）
- ・「プレゼンのコツ」講座 12月
- ・プレゼンリハーサル 1月

②コラボ四街道採択後の支援（令和7年度事業実施団体について）

③市民団体、NPO法人設立・運営の相談・助言・情報提供

(5)施設管理

情報コーナー維持管理

- ・センターにきた人が、地域づくりに役立つ情報が得られるよう展示内容や方法を工夫します。

○その他 みんなで地域づくりセンターの業務目的を達成するために必要な業務

仕 様 に あ る 業 務 内 容	(1)相談窓口業務および 様々主体とのつなぎ				(2)情報の収集及び発信			(3)市民活動に関する学習・相互交 流の機会の提供				(4)人材の育成、 発掘や新たな市 民活動への支援	(5)施 設 管 理
	・相談・提案事項に対する情報のヒア リング ・対応の方向性の提案 ・課題の共有・分析・解決に向けたコー ディネート(様々な個人・団体・機関との 連携のための対話の機会) ・運営に役立つ相談、助言(会計等)				・先進事例・市民活動支援情報の 収集・蓄積・発信 ・市民活動団体の活動状況の実 態調査・報告 ・センターの基本的情報、協働事 業・コーディネートに関すること のHP・SNSやイベントでの情報発信			・市民活動への参加促進を目的とした相談会、 研修会、講座 ・地域課題・社会課題の解決に向けたネットワ ークづくり及び継続の支援に関する講座等				・コラボ四街道の 相談、申請支援 ・採択後の支援・ ・市民団体、NPO 法人設立・運営の 相談・助言・情報 提供	情報 コー ナー 維 持 管 理
事 業	相 談 対 応	支えあい/ 健康まち づくり(連 携・協働)	学校・関 係機関等 との連携・ 協働 ・淑徳大	アートを活 かしたまち づくり	「みんな で」市政だ より掲載・ 特集号等 発行	団体基本 情報 (＋災害時で できること情報)	HP◎ SNS◎	市民活動 の基礎講 座	こども支援 ネットワー ク	災害支援 ネットワー ク	大きな テーブル/ ユニバー サル農業 フェスタ	コラボ四街道申請 サポートと採択後 の支援等	新着情 報受付 配架・掲 示
4 月	○	(4/17健康ま ちづくり運営 委員会)	(4/16セン ター事業 説明)			(団体掲 載) ＋コラボ団 体も掲載	◎○		★4/15号 4/22こども万 博ボランティ ア・出展団体 説明会	4/5コアメン バー会議 4/18原稿p 1/4	4/24 実行委員 会・出展団 体交流会		
5 月	○		(こども)	5/22原稿p 1/3		更新p 5/20	◎○	5/20市民 活動の基礎 講座① 社会的役 割	5/11 こども万博 (夢見る小 学校上映会 13日も)	5/10コアメン バー会議	★5/1 5/31大き なテー ブル	5/8原稿p1/4	
6 月	○	(地域支えあ い推進会議)	(こども) (災害)				◎○	6/24基礎 講座②NPO の運営・資 源	6/25安心安 全なこども 食堂・居場 所とは	★6/1号 6/7コアメン バー会議 6/28災害 支援ネット ワーク交 流会1	6/12振り返 り	★①6/15 「コラボ四街道申 請サポートしま す」掲載	
7 月	○			★7/1号	7/7原稿p1p		◎○	7/8 基礎講座 ③市民活 動の法人 格					
8 月	○	(100人情報交 換会⑧)	(こども) (ユニバー サル)	8/月上旬 みんなの アートWS (8/23.24ふる さとまつり)	★市政だ より8/15号 コラボ採 択団体の 活動		◎○		8/2・3準備 8/4 夏休 みこども主 体WS		ユニバーサ ル農業フェ スタ実行委員 会	8/1原稿p1/4	
9 月	○		(ユニバー サル)	(担当部署と の振り返り)			◎○	9/4原稿p1/4			9/4原稿p 実行委員会	●9/1(市)コラボ提 案募集 ★9/15号 9/24コラボ四街 道説明会・申請書 書き方講座	
1 0 月	○		(ユニバー サル) (災害)				◎○	★10/15号			★10/15 号 実行委員会	個別相談会	
1 1 月	○		(ユニバー サル)				◎○	11月下旬 「広報講 座」		災害支援 ネットワー ク交流会2	11/15ユ ニバーサ ル農業 フェスタ	(コラボ四街道申 請p切り)	
1 2 月	○						◎○	12/1原稿p 1/4	12/1原稿p1/3	12/1原稿p 1/4	振り返り	プレゼンのコツ講 座	
1 月	○						◎○	★1/15号	★1/15号	★1/15号		プレゼンリハーサ ル	
2 月	○	(地域支えあ い推進会議)	(災害)				◎○ そごう展 示		こども支援 交流会	2/中旬 あるといい よね！ 避 難所運営 委員会Ⅱ			
3 月	○	(100人情報交 換会⑨)			(市政だより掲 載なし) センターの 事業紹介		◎○	3月上旬 「SNS活用 講座」					

コラボ四街道ガイドブック 2026（案）

みんなで地域づくり事業提案制度募集要項

募集期間

2025.9.1（月）～10.31（金）

意見交換等期間

2025.11.7（金）～11.28（金）

最終提出期限

2025.12.12（金）

公開プレゼンテーション

2026.2.17（火）※予定

^^^-----

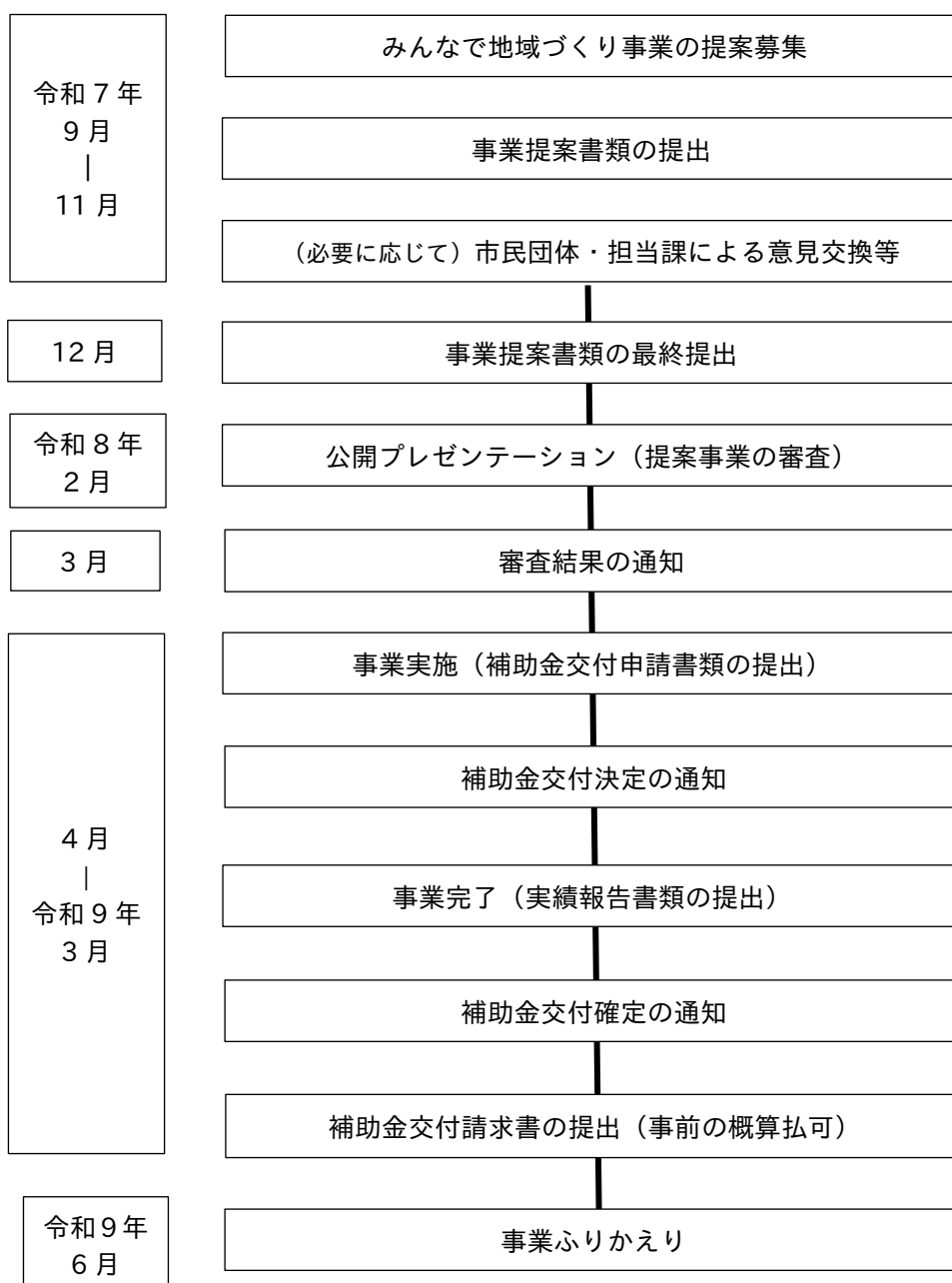
1 みんなで地域づくり事業提案制度（コラボ四街道）とは

みんなで地域づくり事業提案制度（コラボ四街道）は、NPO 法人、ボランティア団体、自治会などの自主的に地域づくり活動を行う市民団体が、より良い地域づくりをめざして、地域にある課題の解決につながる事業を提案し、主体的に、または市と協力して事業を実施する制度です。

市民団体及び市は人材、技術、場所、資金等の社会資源を持ち寄ることで事業の実現性を高め、魅力ある地域づくりを実践していきます。

^^^-----

2 事業の流れ



^^^-----

3 事業部門・補助金額

事業実施にあたって、市民団体が提案できる部門は、以下のとおりとなります。また、補助金額は、次に示す補助率による補助額を上限として予算の範囲内で補助金を交付します。補助率とは、対象経費（6 対象経費 参照）のうち何%まで補助金の交付が可能かを示したものです。上限額の範囲内で補助金を申請してください。※補助金の額は千円未満を切り捨てた額となります。

① 地域づくり部門

交付上限額：1 年度目 50 万円 2 年度目 40 万円 3 年度目 30 万円

補 助 率：対象経費の 90%

交 付 回 数：同一事業につき 3 回

要 件：地域づくりや地域課題等の解決を図るためのスタートアップや活動を拡充させる事業であること。

（補助金額例）地域づくり部門：申請 1 年度目・対象経費 580,000 円の場合

$580,000 \text{ 円 (対象経費)} \times 90\% \text{ (補助率)} = 522,000 \text{ 円}$ になるが、補助金の申請は上限である **500,000 円**まで可能となる。

② 若者チャレンジ部門

交付上限額：1～3 年度目の各年度 10 万円

補 助 率：対象経費の 100%

交 付 回 数：同一事業につき 3 回

要 件：生徒や学生等が中心となり、地域づくりや地域課題等の解決を図るための事業であること。

（補助金額例）若者チャレンジ部門：申請 2 年度目・対象経費 85,500 円の場合

$85,500 \text{ 円 (対象経費)} \times 100\% \text{ (補助率)} = 85,500 \text{ 円}$ となるが、補助金の申請は千円未満を切り捨てた **85,000 円**まで可能となる。

※補助期間は単年度ですが、補助を継続することで次年度以降の事業の波及性、発展性等が見込まれるものや大きな成果が期待できる場合は、3 年度を限度に申請が可能です。（審査は年度ごと実施）

※事業の実績を踏まえて、課題、問題点を検証し、改めて計画をつくり、次年度以降の提案につなげてください。

□補助金の金額の変更について

補助金の金額は、提案書類提出後、原則変更することができませんので、ご注意ください。

また、決算時に対象経費の 90%が予算時の補助金額に満たない場合は決算時の対象経費の 90%までしか補助金を交付することができませんので、ご注意ください。

^^^-----

4 提案できる団体

提案できる市民団体は、次の①～③のすべての要件に該当する団体とします。なお、若者チャレンジ部門に関しては、④～⑦を含むすべての要件に該当する団体とします。（*NPO、事業者等も対象になります。）

①四街道市内を主な活動範囲としていること

②運営及び会計処理が適正に行われていること

③3 人以上で組織されていること

④構成員には満 18 歳以上の方が 2 人以上必要です。いない場合は、構成員とは別に満 18 歳以上の代表

者及び会計責任者を各 1 人以上置くこと。

⑤事業実施年度において在学している中学校、中等教育学校若しくは高等学校の生徒または高等専門学校、専修学校、大学（短期大学を含む。）若しくは大学院の学生その他の 10 代又は 20 代である若者を主体とした市民団体とする。（*在学証明書等の提出が必要）

⑥構成員の半分以上が生徒または学生等であること。

⑦生徒（未成年者）により構成される場合は、法定代理人による同意を得ていること。

^^^^-----

5 対象となる事業

本制度の対象となる事業は、次の①から③のすべての要件に該当する事業で、かつ④から⑦までのいずれかに該当するものとします。

①地域づくり、地域課題等の解決につながるもの

②市民ニーズに柔軟に対応し、具体的な成果が期待できるもの

③事業計画及び予算の積算が適正であるもの

④市民の地域への参画が促進されるもの

⑤市と協力して実施することにより、市及び市民団体双方の事業の推進に相乗効果が期待できるもの

⑥市民団体の基盤強化や人材育成につながるもの

⑦事業の目的意識や役割分担が明確で地域づくりにつながるもの

ただし、次のいずれかに該当する事業は対象外とします。

①現在本制度の事業として実施されている事業で 3 年を超えるもの

②主として営利活動を目的としたもの

③特定の個人や市民団体のみが利益を受けるもの

④調査研究のみを目的としたもの

⑤交流または親睦のみを目的としたもの

⑥宗教活動または政治活動を目的としたもの

⑦特定の公職の候補者もしくは公職にある者または政党に関係するもの

⑧暴力団または暴力団員と関係するもの

⑨公序良俗に反するもの

⑩国、県及びそれらの外郭団体等から助成を受けているもの

⑪既存制度で対応できるもの

⑫その他市長が適当でないと認めるもの

[具体例]

多文化共生活動・・・外国人に対する防災の啓発、アフガニスタン人との交流イベント

環境活動・・・環境美化、里山保全（公共施設の環境美化活動、ほたる観察会）

地域福祉活動・・・高齢者等訪問活動、スマホ・PC 教室、チャリティバザー、

教育活動・・・子供向けのプログラミング教室、スポーツイベント

居場所づくり・・・子ども食堂、高齢者サロン

その他・・・特定地域※（千代田地区）を対象とした地域活力の維持・向上等の活動、子育て世代向けイベント、

※総合計画第 1 期基本計画において、市の中で最も高齢化率の高い千代田地区を「特定地域」と指定

^^^-----
6 対象経費

補助金の対象となる経費は次のとおりですが、経費の妥当性や金額については、担当課との意見交換や審査の段階で調整する場合があります。

①報償費 ②旅費 ③需用費 ④役務費 ⑤委託費

⑥使用料及び賃借料 ⑦備品購入費 ⑧その他の経費

*市からの補助金交付決定通知以前に発生した費用は原則対象となりません。

☐有償ボランティアの考え方（参考）

・有償ボランティア費（報償費）の計上にあたっては、公的資金を活用しての事業となること、また他の市民活動やボランティア活動との公平性等を考慮し、真に必要な経費であるかを精査してください。

[有償ボランティアの目安]

500 円／半日（4 時間程度） 1,000 円／1 日（8 時間程度）

☐備品購入費の考え方（参考）

・備品購入費の計上にあたって、地域づくり部門は、1 品 1 万円以上 5 万円以下かつ補助金額に対して 2 割を上限とし、若者チャレンジ部門は、1 品 1 万円以上 2 万円以下かつ補助金額に対して 2 割を上限とします。

なお、購入した備品は備品台帳を作成し、管理してください。

例 1） 地域づくり部門

500,000 円（補助金額）×20%（上限）＝100,000 円

上限である **100,000 円**まで備品購入費の計上が可能（**1 品 50,000 円**まで）

※1 品 40,000 円の備品を 2 点、30,000 円の備品を 1 点購入した場合、合計で 110,000 円となるので、このうち 100,000 円が対象経費、10,000 円を対象外経費となります。

例 2） 若者チャレンジ部門

100,000 円（補助金額）×20%（上限）＝20,000 円

上限である **20,000 円**まで備品購入費の計上が可能（**1 品 20,000 円**まで）

☐予算・決算計上時の注意点

・団体構成員に支払う費用についてはどの費目においても対象外経費です。

※ただし、専門的な知識を有する方への依頼等を除く。

・対象経費の基準に当てはまっている費目であっても、予算書の対象経費内に計上されていないものは、決算時に対象外経費での計上となります。計上漏れがないかご確認のうえ、ご提出ください。

・採択は単年度事業に対してのものであるため、採択事業実施年度の翌年度以降の準備に要する経費については対象経費であっても計上できません。

□対象となる経費の例示

費目		例示
報償費		◆外部講師、出演者への謝金（外部講師等への交通費は報償費で計上） *ただし、1人あたりの報償費の上限を5万円とする ◆有償ボランティア費（主たる活動への団体構成員以外に対する謝金） *ただし、総事業費に占める割合が概ね3割を超えない範囲 （認められない経費） ・団体構成員に対する謝金・菓子折り等（現金以外のもの） ・団体構成員でない場合であっても、団体内部の会議への参加に対する謝金
旅費		◆事業実施にあたり直接的に要するバス、電車等の交通費 *ICカード等の使用により費用の証明が困難な場合は、経路、移動先等が客観的にわかる資料を整えること （認められない経費） ・団体構成員に対する交通費、イベント等参加者の交通費
需用費	消耗品費 *購入価格が1万円未満のもの	◆筆記用具、コピー用紙、種苗、環境衛生のための薬剤等 （認められない経費） ・団体構成員への花束等の品物 ・コンテスト等のトロフィー、メダル、記念品
	印刷製本費	◆PRポスター、パンフレット、プログラム、コピー、写真の現像等
	燃料費	◆事業実施にあたり直接的に要するガソリン等
役務費	通信運搬費	◆募集案内、チラシ、商品の受け取り等の送料 ◆会場までの資材等の配送に係る運搬費 （認められない経費） ・個人、団体が所有している電話等の通信費・団体構成員のみの会議等に係る通信費
	手数料	◆振込手数料、クリーニング代
	保険料	◆事業実施にあたり必要な保険料（イベント保険等） （認められない経費） ・火災、地震等の家屋に係る保険料
委託費		◆事業実施にあたり、専門的な技術等（デザイン等）を要する業務を外部に委託する経費 （認められない経費） ・事業を全て外部に委託する等
使用料及び賃借料		◆公民館等公共施設、会議室、イベント会場等使用料 ◆機材レンタル・リース料等 ◆事業実施のために借り上げた施設の賃借料 （認められない経費） ・個人、団体に車両等を借りた場合の使用料 ・団体等が管理する施設等への使用料 ・団体事務所等、団体運営のための経常的な経費に当たるもの
備品購入費		◆事業実施にあたり必要不可欠なもので、長期的に当該事業において使用する物品 ※地域づくり部門は、1品1万円以上5万円以下かつ補助金額に対して2割を上限とし、若者チャレンジ部門は、1品1万円以上2万円以下かつ補助金額に対して2割を上限とする ※備品台帳を作成すること （認められない経費） ・1品5万円を超える物品 ※汎用性の高い物品は、リース等を活用すること
その他経費		◆事業のために必要な経費で、市長が必要かつ適切と認める経費

※全経費共通で補助対象にならないのは下記のとおりです。

- ・公的資金を支出する事業として、社会通念上、適切と認められない経費
- ・当該事業に直接必要と判断しかねる経費
- ・市民団体で経常的に要する経費（事務所の光熱水費やスタッフ人件費等）

7 補助金以外の協力・サポート

市は、補助金の交付以外にも、相談や情報提供等、事業実施にあたり必要な社会資源の提供を積極的に行います。提案にあたっては、双方が提供できる社会資源について意見交換を行い、効果的に事業の実施ができるよう努めます。また、本制度に採択された場合は広報支援として、採択年度では2回／年、採択翌年度では1回／年市政だよりに記事の掲載をすることが可能となります。

□みんなで地域づくりセンターによるサポート

みんなで地域づくりセンターでは、普段、生活の中で市民のみなさんが感じる地域の課題やその解決方法、地域をよりよくする取組についてアイデアを出し合う場を設けています。

また、事業提案に向けた申請書の書き方、資料作成のサポートやプレ・プレゼン（公開プレゼンテーション前の練習会）も行っていますので、ご活用ください。

みんなで地域づくりセンター（市文化センター内）

〒284-0001 四街道市大日 396 TEL : 043-304-7065 MAIL : info@minnade.org

火曜—金曜 9:00—17:00 土曜（第1・3） 9:00—17:00

8 応募手順・方法

①書類の提出（募集期間内）

次の書類を作成の上、みんなで課に提出してください。

- (1) みんなで地域づくり事業提案書（実施要綱様式第1号）
- (2) みんなで地域づくり事業計画書（実施要綱様式第2号）
- (3) みんなで地域づくり事業収支予算書（実施要綱様式第3号）
- (4) 提案団体概要書（実施要綱第4号）
- (5) 団体の規約、会則等
- (6) 団体名簿
- (7) 団体の活動内容がわかるもの（新規団体を除く）

※募集期間内に提出された書類の内容や予算額等は、原則として、これより先の手順において団体都合で変更することはできません。この段階で事業の基礎は固めた状態で書類を提出してください。ただし、みんなで課から団体に書類の修正や再提出をお願いする場合があります。

②担当課との意見交換等

担当課との意見交換等を行い、事業を実施する上での課題等を共有します。

※意見交換期間中にみんなで課から担当課宛に意見照会を行い、その結果を各団体にお知らせします。各団体でも必要に応じて担当課と打ち合わせを行ってください。

※担当課がない場合は、本意見交換等の手続きは省略になります。

③書類の最終提出

担当課との意見交換後、必要に応じて提案書類を修正した上で、再度みんなで課に提出してください。*必ず①募集期間内に提出した後、②の手順を経て、③最終提出してください。

④書類の配布場所

- (1) みんなで課
- (2) みんなで地域づくりセンター
- (3) 市ホームページ

9 審査

提案された事業は、みんなで地域づくり推進委員会委員の 6 名が提出書類及び公開プレゼンテーションにより総合的に審査を行い、最終的には四街道市長が採択団体を決定します。公開プレゼンテーションは、説明時間 7 分、質疑応答時間 7 分とします。

※応募団体が多数の場合は、事前に書類審査を行うことがあります。

□審査基準

審査項目	審査の視点
ニーズの把握	市民や地域のニーズを的確に捉えているか
課題の把握	地域課題を的確に捉えているか
企画力・企画の適正性	地域課題の解決や地域づくりを効果的、効率的に進めていくための具体的かつ現実的な企画になっているか
実現可能性	事業を実施する能力（専門知識、技術、人材等）があるか
継続性※	一過性の事業ではなく、団体の目的や将来ビジョンと整合性があり、団体の自立や発展に資する事業であるか。
発展性・波及性	事業の発展や地域に波及することが期待できるか また多様な市民等の参加・参画が見込めるか
成果	事業を実施することにより期待できる成果は明確かつ妥当であるか
費用対効果	成果に見合った妥当な経費の見積もりがされているか
補助の必要性	本事業の実施にあたり、当該補助金がなくとも事業を遂行することができるか。※補助の必要性が高い場合は 5 点、低い場合は 1 点

※若者チャレンジ部門は、審査項目から継続性を対象外とする。

5 点	4 点	3 点	2 点	1 点
とても評価できる	評価できる	基準（採択相当）	やや評価できない	評価できない

- ・各項目を 5 点満点で採点し、事業採択の適否を審査します。
- ・各委員が採点した平均点が 2.7 点以上の場合は採択とします。
- ・各項目の中で 5 項目以上が 3 点未満の評価となった場合は不採択とします。
- ・「補助の必要性」が 3 点未満の場合は不採択とします。

*審査基準等は、協議により変更される場合があります。

10 事業の実施から完了まで

①補助金の申請

審査結果をもとに、市長は採択事業を決定します。採択された市民団体は、必要に応じて担当課と詳細な意見交換等を行います。補助金の交付にあたっては、次の書類を作成の上、令和 8 年 4 月 1 日以降、みんなで課に提出してください。

- (1) みんなで地域づくり事業補助金交付申請書（補助金交付要綱様式第 1 号）
- (2) みんなで地域づくり事業計画書（実施要綱様式第 2 号）
- (3) みんなで地域づくり事業収支予算書（実施要綱様式第 3 号）
- (4) 提案団体概要書（実施要綱様式第 4 号）
- (5) 団体の規約、会則
- (6) 団体名簿

(7) その他申請にあたり必要となるもの

※ただし(2)～(7)は提案時から変更がない場合は省略可

※補助金の概算払いを希望する場合は、事前にご相談ください。

※団体名、代表者名、事業内容等について、ホームページ等で公開する場合があります。

②事業の実施

事業の実施は4月1日から可能ですが、市からの補助金交付決定通知以前に発生した費用は原則対象となりませんので、事業に係る経費の支出も、補助金交付決定通知以降に行うようにしてください。

事業を実施する上では、担当課と協力し、必要に応じて、協議、調整を行ってください。

また、チラシ等広報物の発行やSNSでの広報等を行う場合には、コラボ四街道採択事業である旨の表記をお願いします。

みんなで課及びみんなで地域づくりセンターで情報を共有し、事業のサポートを行いますので、お気軽にご相談ください。

③事業の変更等

事業内容に変更が生じる場合、みんなで課にご相談ください。軽微な変更を除いて、みんなで地域づくり事業補助金変更(中止・廃止)承認申請書(補助金交付要綱様式第3号)の提出が必要となります。

また天災、団体の都合などにより、事業の実施ができない場合なども同様に提出することとなりますので、ご相談ください。

[軽微な変更の例]

- ・ 事業内容の目的達成に支障のない範囲での消耗品等の購入による増減
- ・ 予定開催日と同月内での日程変更
- ・ 団体構成員の変更 等

*上記の例にあっても、事業内容、全体への影響などの総合的な判断により、軽微な変更と認められない場合もあるので、早めにご相談ください

※事業を大幅に変更する場合、補助金の一部または全部を返金いただく場合があります。

④事業の完了

事業が完了したときは、市長が定める期日までに次の書類を作成して、みんなで課に直接提出してください。

- (1) みんなで地域づくり事業補助金実績報告書(補助金交付要綱様式第4号)
- (2) コラボ四街道まとめ(事業成果、課題、今後の事業展開等)
- (3) 収支決算書(繰越金が発生した場合は、次年度以降の使途を明記すること)
- (4) 経費の支出がわかる書類(領収書等)
- (5) 備品台帳(備品を購入した場合のみ提出)
- (6) 印刷物や任意書式の報告書など必要と認められる書類

※(2)、(3)、(5)、(6)の書類は、みんなで地域づくり推進委員会での資料として配布したり、市ホームページ上で公開したりする場合があります。(個人情報が入っている場合は、その部分を伏せた形で公表します。)

⑤補助金の確定

市は、上記書類を審査し、補助金の額を確定し、市民団体へ補助金交付確定の通知をします。

なお、審査の結果、補助金を減額する場合があります。

^^^-----

11 事業のふりかえり

市民団体は事業が完了したら「コラボ四街道まとめ」を作成し、みんなで課に提出します。事業実施の翌年度に「コラボ四街道まとめ」に対してみんなで地域づくり推進委員会等から意見を聴くことで、今後の事業の参考とし、事業の質の向上を図っていきます。

^^^-----

12 おわりに

みんなで地域づくり事業提案制度（コラボ四街道）は、市民団体が、より良い地域づくりをめざして、地域にある課題の解決につながる事業を提案し、主体的に、または市と協力して事業を実施する制度です。事業終了後も継続することはもちろん、より充実した事業に発展させていくためにも連携や協力を絶えず行っていくことが大切です。

関連資料

[記載例]

年 月 日

四街道市長 ○○ ○○ 様

職名（代表、実行委員長等）も記載
例年、代表者の職名の記入漏れが多いため注意してください

名 称

提案団体 所在地

代表者 代表 ○○ ○○

事業名だけで事業内容、目的が伝わる名称に

みんなで地域づくり事業提案書

事業の概要を 100 字程度で記載

四街道市みんなで地域づくり事業提案制度実施要綱第 7 条の規定により、次のとおり提案します。

①・2・3 年度目

事業名	……でイキイキ……活性化事業		
事業概要	……を対象に……を実施して、……広く……するための事業をするもの		
事業分野		保健・医療・福祉	○ 社会教育
		まちづくり	観光
		農村等振興	文化・芸術・スポーツ
		環境	災害救援
		地域安全	人権擁護・平和
		国際協力	男女共同参画
	◎	子どもの健全育成	情報化社会
		科学技術	経済活動
		職業能力開発・雇用機会拡充	消費者保護
		市民活動支援	その他()
事業部門		地域づくり部門	○ 若者チャレンジ部門
市の担当課	○○○課 △△△課		
添付書類	(1) みんなで地域づくり事業計画書(様式第 2 号) (2) みんなで地域づくり事業収支予算書(様式第 3 号) (3) 提案団体概要書(様式第 4 号) 連携や協力を得たい市の担当課を記載 (4) 団体の規約、会則等の写し (5) 団体の構成員の名簿 (6) 団体の活動内容がわかるもの(パンフレット等) (7) その他()		

備考

- 「事業概要」は、簡潔に記載してください。
- 「事業分野」は、該当する分野に○印を付けるものとし、該当する分野が複数ある場合には、主なものに◎印を付け、その他のものに○印を付けてください。
- 「事業部門」は、いずれかの部門に○印を付けてください。

[記載例]

みんなで地域づくり事業計画書

事業名	事業を行うきっかけや課題認識、背景を記載 またどのように市民の役に立つか、どのような地域を目指すかを記載	
目的・必要性	以前より、西街道市では……という課題があり、……で対応している現状がありました。 そのような中で……を実施することで……の充実が図れ、市民にとって……な地域となります。 当団体がこれまで実施してきた……のノウハウを生かし、……することでこのような地域とすることが本事業における目的です。	
内 容	1. ……の開催 [内容]……を対象に、……を講師に……を開催 [会場]……公民館 2. ……の実施 [内容]……を対象に、……を制作する……を実施 [会場]……センター	
スケジュール	時 期	具体的な取組
	5 月	広報活動（チラシ・ポスター配布）、参加者募集
	7 月	リハーサル
	8 月	イベント、講座などの本番の日程だけでなく、主要な事前準備や広報のタイミングなど事業全体の流れがわかるよう記載
担当課	(担当課) 〇〇〇課、△△△課	
	(役割) [〇〇〇課] ……指導員の紹介 [△△△課] ……に関するアドバイス 市政だよりへのイベント情報掲載	
他団体との連携	……大学（講師の紹介） NPO 法人……（技術的支援） ……の会（広報協力）	
期待される成果	(1) ……の開催により多くの……に関心のある市民が集まることで、……意識を向上させるとともに、……他地域へ広がっていくことが期待できる 参加者数：〇〇人 (2) ……の実施により得られたアンケート結果を踏まえて、……をまとめ、今後の……活動に活かしていくことが期待できる アンケートサンプル数：〇〇件	

[記載例]

みんなで地域づくり事業収支予算書

事業名	〇〇〇事業
-----	-------

【収入】

対象経費（B）の補助割合（対象部門毎の上限）
以内で千円未満切り捨てになっているか確認

(単位：円)

項目	予算額	具体的な内容・積算
市補助金	300,000	
自己資金	55,000	会費 30,000 円 講座参加費 25,000 円
寄付金	20,000	一口 5,000 円×4 件
		事業に関する収入を漏れなく記載
収入合計	375,000	A(=D)

【支出】

(単位：円)

項目	予算額	具体的な内容・積算
対象経費	報償費	80,000 講師謝礼金 50,000 円 有償ボランティア費 30,000 円 (1,000 円×10 人×3 回)
	消耗品費	45,000 コピー用紙 10,000 円 (1,000 円×10 個) 文具類 (筆記用具、マジック等) 15,000 円 インク 20,000 円 (4,000 円×5 個)
	印刷製本費	80,000 イベントチラシ 50,000 円 (50 円×10,000 枚) 講座チラシ 30,000 円 (50 円×6,000 枚)
	通信運搬費	40,000 イベントチラシ郵送代 40,000 円 (80 円×5,000 円)
	使用料及び賃借料	90,000 イベント会場使用料 60,000 円 (30,000 円×2 日) テント賃借料 30,000 円 (15,000 円×2 日)
小計		335,000 B 積算根拠 (単価、数量) を記載
対象外経費	報償費	10,000 イベント協力者菓子折り
	食糧費	20,000 イベント打合せ食糧費
	通信運搬費	10,000 団体電話使用料
小計		40,000 C 収入合計欄 (A) と等しくなるよう記載
支出合計		375,000 D(B+C)

備考

- 1 見積書等、積算の根拠となる書類がある場合は、当該書類を添付してください。
- 2 提案時における事業費及び市補助金額は、担当課との意見交換等を経て変更される場合があります。

[記載例]

提案団体概要書

団 体 名			
所 在 地 等	(〒 —)	事務所がある場合は所在地、 個人宅の場合は住所を記載	
	電 話		
	ファクシミリ		
	電 子 メ ー ル		
	ホ ー ム ペ ー ジ	HP や Facebook などがある場合は記載	
代 表 者	役 職		
	ふ り が な 氏 名		
	住 所	(〒 —)	
連 絡 責 任 者	ふ り が な 氏 名	郵送の送付先、連絡窓口の責任者を記載 (代表者の場合は「同上」と記載)	
	住 所	(〒 —)	
	電 話		
	電 子 メ ー ル		
設 立 年	年	会 費	円
構 成 員 数	人(うち四街道市民 人)		
主 な 活 動 地 域	(市内)		
	(市外)		
活 動 目 的	団体の活動（事業）目的を記載 (本制度活用のために立ち上げた場合は、その目的を記載)		
主 な 活 動 実 績	設立から現在までの団体の主な活動実績について記載 (当市の補助金、助成金等の交付実績等を含む)		
そ の 他	(PR 等)	団体活動の補足事項、PR 事項などあれば記載	

□事業分野一覧

1	保健・医療・福祉の増進	2	社会教育の推進
高齢者支援、障害者支援、生活支援、点字・手話教育活動、公衆衛生の啓発、薬品の情報提供		生涯学習活動、読み書き教室、不登校児や引きこもり青少年の学びの場を提供する活動	
3	まちづくりの推進	4	観光の振興
まちおこし、地域活性化、地域コミュニティの活性化、地域情報誌の発行、バリアフリーの推進		地域ブランドづくり、観光商品開発	
5	農村等の振興	6	学術・文化・芸術・スポーツの振興
過疎防止活動、就農支援、地産地消		伝統文化の振興・継承、芸術家への支援、演劇鑑賞会、地域楽団、地域劇団、スポーツ大会やスポーツ教室	
7	環境の保全	8	災害救援活動
野生動物や野鳥の保護、森林保全、環境セミナーなど自然・環境教育活動、公害防止活動、ペット保護		災害の救援活動、被災者の生活支援、救援ネットワークづくり、災害予防の普及活動	
9	地域安全活動	10	人権擁護・平和の推進
防犯パトロール、犯罪・事故の予防、交通安全活動、交通マナー向上活動、登下校時の見守り活動		外国人、障害者、女性、子どもなどの人権啓発、核兵器廃絶などの平和推進活動、いじめ防止活動	
11	国際協力活動	12	男女共同参画の促進
留学生の支援活動、帰国者の援助、国際交流活動、海外との文化交流、多文化共生		女性の自立支援、セクハラ防止活動、雇用の充実を図る活動、女性が安心して働ける環境整備を促す活動	
13	子どもの健全育成	14	情報化社会の発展
子育て支援、子ども会活動、児童保育、学童保育、非行防止活動、いじめ相談、児童相談		パソコン教室などインターネットを利用した学習システムの普及活動、情報通信ネットワークづくり	
15	科学技術の振興	16	経済活動の活性化
科学技術とまちづくりなどの異分野をつなぐ活動、科学教育教室など科学や技術への関心を高める活動		地域産業の振興など、地域経済活性化の促進を図る活動、起業支援、コミュニティビジネス支援	
17	職業能力開発・雇用機会の拡充	18	消費者保護活動
就労情報の提供・就労支援、雇用創出を図る活動、高齢者への雇用支援、障害者への職業訓練活動		商品知識の普及を図る活動、詐欺被害にあわないための消費者教育活動、消費者相談	
19	市民活動支援	20	その他
上記の活動を行う団体に対する助言や支援、団体間の連絡・交流を図る活動、中間支援活動		その他、地域づくりに関する活動	

[Q & A]

Q 構成員は市内在住でなければいけませんか。

A 構成員は市外在住でも構いませんが、団体の主な活動場所が市内であることが必要です。また、本制度に申請する事業に関しては市内で実施する必要があります。団体が、本制度を活用した事業とは別の事業において市外での活動を行うことは問題ありません。

Q 若者チャレンジ部門と地域づくり部門の２部門でそれぞれ事業を提案することは可能ですか。

A 若者チャレンジ部門と地域づくり部門は同時に提案することはできません。

Q 担当課は必ず設定しなければいけませんか。

A 必須ではありませんが、連携できる担当課があれば設定してください。

Q 国、県及びそれらの外郭団体等から助成を受けている事業は本制度の対象にならないというのですが、既に助成を受けている団体で、現在助成を受けている事業とは異なる事業での申請は可能ですか。

A 団体として他の制度で助成を受けていたとしても、本制度に申請する事業と異なっていれば本制度の対象となります。市の他の制度で助成を受けている場合も同様です。不安のある場合は、ご相談ください。

Q 過去に事業を採択されたことのある団体が、別の事業で新たに申請することは可能ですか。

A 過去に採択された事業と異なる地域課題解決のための事業である場合には、新規事業として申請することが可能です。不安のある場合は、ご相談ください。

Q 複数年度に渡る事業で補助金を申請したい場合は、年度ごとに申請する必要がありますか。

A 同じ事業では、最大で３年度採択されるまで申請が可能ですが、申請の手続き、審査、補助金の交付は年度ごとに行います。また、過去に採択されたことのある事業でも、次の年度の申請時に必ずしも採択になるとは限りません。事業の実績等を踏まえ、課題、問題点を検証し、改めて計画をつくり、次年度以降の提案につなげてください。

Q １年度目、もしくは２年度目まで事業が採択され、本制度を活用して活動を行った後、数年後に同様の事業を再度提案することは可能ですか。

A 可能です。以前提案したものと同様の事業内容である場合は、年度が引き継がれ、補助金額は次の年度のものが適用されます。例えば、１年度のみ本制度の補助金を活用しての活動を行い、数年間自主財源で活動を行った後に同様の事業で申請を行う場合は、補助金の上限額は２年度目のものが適用されます。

コラボ四街道ガイドブック 2026

四街道市地域共創部みんなで課

地域づくり係

TEL 043-420-7525 / FAX 043-424-8920

9 審査

提案された事業は、みんなで地域づくり推進委員会委員の 6 名が提出書類及び公開プレゼンテーションにより総合的に審査を行い、最終的には四街道市長が採択団体を決定します。公開プレゼンテーションは、説明時間 7 分、質疑応答時間 7 分とします。

※応募団体が多数の場合は、事前に書類審査を行うことがあります。

□審査基準

審査項目	審査の視点
市民ニーズ・地域課題の認識・事業の必要性	市民や地域のニーズ、地域課題等を的確に捉えているか また本制度で事業を実施する必要があるか
企画力・企画の適正性	地域課題の解決や地域づくりを効果的、効率的に進めていくための具体的かつ現実的な企画になっているか
実現可能性・継続性※	事業を実施する能力（専門知識、技術、人材等）があるか また今後、事業の継続性（資金調達等）が見込めるか
発展性・波及性	事業の発展や地域に波及することが期待できるか また多様な市民等の参加・参画が見込めるか
成果・費用対効果	事業を実施することにより期待できる成果は明確かつ妥当であるか またその成果に見合った妥当な経費の見積もりがされているか

※若者チャレンジ部門は、審査項目から継続性を対象外とする。

5 点	4 点	3 点	2 点	1 点
とても評価できる	評価できる	基準（採択相当）	やや評価できない	評価できない

- ・各項目を 5 点満点で採点し、事業採択の適否を審査します。
- ・各委員が採点した平均点が 15 点以上の場合は採択とします。
- ・各項目の中で 3 項目以上が 3 点未満の評価となった場合は不採択とします。

*審査基準等は、協議により変更される場合があります。

10 事業の実施から完了まで

①補助金の申請

審査結果をもとに、市長は採択事業を決定します。

採択された市民団体は、必要に応じて担当課と詳細な意見交換等を行います。

補助金の交付にあたっては、次の書類を作成の上、4 月 1 日以降、みんなで課に提出してください。

- (1) みんなで地域づくり事業補助金交付申請書（補助金交付要綱様式第 1 号）
- (2) みんなで地域づくり事業計画書（実施要綱様式第 2 号）
- (3) みんなで地域づくり事業収支予算書（実施要綱様式第 3 号）
- (4) 提案団体概要書（実施要綱様式第 4 号）
- (5) 団体の規約、会則等
- (6) 団体名簿
- (7) その他申請にあたり必要となるもの

※ただし (2) ～ (7) は提案時から変更がない場合は省略可

※補助金の概算払いを希望する場合は、事前にご相談ください。

※団体名、代表者名、事業内容等について、ホームページ等で公開する場合があります。